

臨床心理学特論Ⅰ		【単位数	2単位
授業コード	M5000	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	梶原 彰子		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	臨床心理論		
本授業の概要			
臨床心理学とは何か、原理と方法論、歴史について、具体的な臨床活動と関連づけながら理解を深める。また、高度専門職業人として臨床心理士・公認心理師について、専門家としての成長過程、職業倫理、社会的責任、記録の採り方、資格制度及び他職種との連携等について学ぶ。			
アクティブラーニングの実施内容		体験学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	臨床心理学とは何か、その原理と方法論について理解して、説明できる	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	心理臨床家のひとつのモデルとして臨床心理士・公認心理師の資格について理解して、説明できる	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	受講態度 (20%)	1/2	
2	複数のレポート課題 (80%)	1/2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わっている経験から、実践的な臨床心理学の基礎的なトピックスを取り上げ、課題意識をもって臨床心理学的な課題への取り組みを促す。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回 臨床心理学とは			
事前学修	臨床心理学の学習分野の関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2時間	
事後学修	臨床心理学の学習内容を振り返ってまとめておくこと関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと	2時間	
第2回 臨床心理学の歴史			
事前学修	臨床心理学の歴史の学習分野の関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2時間	
事後学修	臨床心理学の歴史を振り返ってまとめておくこと関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと	2時間	
第3回 臨床の知と科学の知			
事前学修	臨床の知と科学の知の学習分野の関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2時間	
事後学修	臨床の知と科学の知の学習内容を振り返ってまとめておくこと関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと	2時間	
第4回 臨床心理行為と医行為			
事前学修	臨床心理行為と医行為の異同を学んで、学習分野の関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2時間	
事後学修	臨床心理行為と医行為の学習内容を振り返ってまとめておくこと関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと	2時間	
第5回 事例研究とその意義			
事前学修	実際の事例研究を読んで、事例研究の内容や意義の関連書籍を読み、疑問点をまとめておくこと	2時間	
事後学修	事例研究論文を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと	2時間	

第6回 事例研究の方法		
事前学修	事例研究の論文を読んで、事例研究の方法の関連書籍を読み、疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	事例研究の学習内容を振り返ってまとめておくこと関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと	2時間
第7回 事例研究と臨床心理学		
事前学修	自分で興味を持った事例研究を積極的に探して読み、事例研究の臨床心理学の中での位置づけや疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	臨床心理学の学習内容を振り返ってまとめておくこと関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと	2時間
第8回 臨床心理専門家としての発達段階		
事前学修	臨床心理学の専門家としてどのように発達していくか専門家としての発達段階に関する関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	自身の心理臨床家としての発達段階にも注目して、関連書籍を読んで、学んだことをまとめておくこと	2時間
第9回 職業倫理Ⅰ 基本		
事前学修	職業倫理の関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	職業倫理の関連書籍や論文を読み直し、実際に臨床現場でどのようなことが問題となってくるのか疑問点をまとめておくこと	2時間
第10回 職業倫理Ⅱ 事例		
事前学修	職業倫理の関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	職業倫理の関連書籍や論文を自分でも探して読み直し、疑問点をまとめておくこと	2時間
第11回 守秘義務		
事前学修	守秘義務の関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	論文の中にある守秘義務のところに気が付き、理解を深め、自分なりにそれをまとめておく	2時間
第12回 記録		
事前学修	臨床心理学の中での記録の扱いに関する書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	書籍や論文の中にある記録のところに気が付き、理解を深め、自分なりにそれをまとめておく	2時間
第13回 関連諸機関の機能と役割Ⅰ 保健医療分野		
事前学修	実習で訪問する保健医療分野での臨床心理業務についての関連書籍を読んで、疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	実際に自分たちが実習に行く保健医療分野について興味を持って調べてまとめておく	2時間
第14回 関連諸機関の機能と役割Ⅱ 福祉分野		
事前学修	実習で訪問する福祉分野での臨床心理業務についての関連書籍を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	実際に自分たちが実習に行く福祉分野について興味を持って調べてまとめておく	2時間
第15回 他職種との協働		
事前学修	臨床心理業務の中での他職種連携について関連書籍を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	実際に自分たちの実習先ではどのような他職種連携が考えられるか調べてまとめておく	2時間

試験等 複数のレポート課題
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必要に応じて、提示配布する
オフィスアワー 月曜日3限
連絡先 sugihara@m.ndsu.ac.jp
留意事項 受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習し、今後の実習をイメージしながら積極的に参加することを望む。

臨床心理学特論ⅠⅠ		単位数	2単位
授業コード	M5010	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	中内 みさ		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	臨床心理論		
本授業の概要			
本授業では、ロジャーズおよびユングの著述をとりあげ、意見発表や討論を通して、ロジャーズやユングの理論の理解を深める。また、それらの理論が臨床現場でどのように生かされているかを考察する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	ロジャーズのカウンセリング理論を説明することができる。		
2	ユングの無意識についての考え方を説明することができる。		
3	ロジャーズの理論がどのように実際の臨床現場で生かされているかを事例を通して論じることができる。		
4	ユングの無意識の考え方がどのように実際の臨床現場で生かされているかを事例を通して論じることができる。		
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	2回のレポート(60%)	1/2/3/4	
2	討論への積極的な参加(40%)	1/2/3/4	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1 オリエンテーション			
事前学修	ロジャーズやユングに関して知っていることをまとめておく。		2時間程度
事後学修	ロジャーズやユングの理論に関して要約しておく。		2時間程度
2 「カウンセリング」を読む1 第1章 緒論			
事前学修	文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておく。		2時間程度
事後学修	討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておく。		2時間程度
3 「カウンセリング」を読む2 第2章 カウンセリングとサイコセラピーにおける新旧両見地			
事前学修	文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておく。		2時間程度
事後学修	討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておく。		2時間程度
4 「カウンセリング」を読む3 第3章 カウンセリングはいつ必要とされるか?			
事前学修	文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておく。		2時間程度
事後学修	討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておく。		2時間程度
5 「カウンセリング」を読む4 第4章 カウンセリング関係の創設			
事前学修	文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておく。		2時間程度
事後学修	討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておく。		2時間程度

6 「カウンセリング」を読む5 第5章 指示的アプローチと非指示的アプローチ		
事前学修	文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておく。	2時間程度
事後学修	討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておく。	2時間程度
7 「カウンセリング」を読む6 第6章 自由に表現するようにすること		
事前学修	文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておく。	2時間程度
事後学修	討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておく。	2時間程度
8 「カウンセリング」を読む7 第7章 洞察の達成		
事前学修	文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておく。	2時間程度
事後学修	討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておく。	2時間程度
9 「カウンセリング」を読む8 第8章 終結時の諸様相		
事前学修	文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておく。	2時間程度
事後学修	討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておく。	2時間程度
10 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む1 夢の重要性～無意識の過去と未来		
事前学修	文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておく。	2時間程度
事後学修	討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておく。	2時間程度
11 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む2 夢の機能～夢の分析		
事前学修	文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておく。	2時間程度
事後学修	討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておく。	2時間程度
12 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む3 タイプの問題～夢象徴における元型		
事前学修	文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておく。	2時間程度
事後学修	討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておく。	2時間程度
13 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む4 人間のたましい～象徴の役割		
事前学修	文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておく。	2時間程度
事後学修	討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておく。	2時間程度
14 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む5 断絶の治癒		
事前学修	文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておく。	2時間程度
事後学修	討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておく。	2時間程度
15 まとめ		
事前学修	これまでの討論を通して得た知見や疑問点を整理しまとめておく。	2時間程度
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	2時間程度

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
【必携書】 ・ロジャーズ 「カウンセリング」 岩崎学術出版社 あるいは 「カウンセリングと心理療法実践のための新しい概念」 岩崎学術出版社 （どちらでも可） ・ユング「人間と象徴 無意識の世界 上」 河出書房新社
オフィスアワー 最初の授業で伝える。
連絡先 中内 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 授業では意見発表や討論を行います。人の心に携わる者としての自覚と積極的で誠実な態度を望みます。

臨床心理学演習A		単位数	2単位
授業コード	M5050	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	中内 みさ		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	臨床心理論		
本授業の概要			
臨床心理学の研究手法や倫理を理解する。また、事例報告書・研究論文の執筆の仕方について学び、心理臨床に関する学術論文を作成するための基礎的能力を習得する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	研究における責務と倫理を説明できる。		
2	事例に応じた報告書を書くことができる。		
3	心理臨床に関する研究の視点と方法について説明できる。		
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	レポートあるいは事例報告書の作成 (50%)	2	
2	発表 (30%)	1/3	
3	討論への積極的な参加 (20%)	1/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. オリエンテーション 臨床心理学演習の目的と授業計画			
事前学修	予め指定された文献を読み、自分の考えをまとめておくこと。		2時間程度
事後学修	学んだことを簡潔にまとめ、教員の指示に従って事後の課題に取り組むこと。		2時間程度
2. 研究倫理に関して1 研究の責任			
事前学修	指定された文献を読み、自分の考えや疑問点をまとめておくこと。		2時間程度
事後学修	学んだことを簡潔にまとめ、教員の指示に従って事後の課題に取り組むこと。		2時間程度
3. 研究倫理に関して2 個人情報の保護および発表の仕方			
事前学修	指定された文献を読み、自分の考えや疑問点をまとめておくこと。		2時間程度
事後学修	学んだことを簡潔にまとめ、教員の指示に従って事後の課題に取り組むこと。		2時間程度
4. 事例研究1 子育て支援に関する事例研究(親)			
事前学修	指定された文献を読み、自分の考えや疑問点をまとめておくこと。		2時間程度
事後学修	学んだことを簡潔にまとめ、教員の指示に従って事後の課題に取り組むこと。		2時間程度
5. 事例研究2 子育て支援に関する事例研究(子)			
事前学修	指定された文献を読み、自分の考えや疑問点をまとめておくこと。		2時間程度
事後学修	学んだことを簡潔にまとめ、教員の指示に従って事後の課題に取り組むこと。		2時間程度

6. 事例報告の書き方1 子育て支援		
事前学修	指定された文献を読み、自分の考えや疑問点をまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	学んだことを簡潔にまとめ、教員の指示に従って事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
7. 事例報告の書き方2 カウンセリング		
事前学修	指定された文献を読み、自分の考えや疑問点をまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	学んだことを簡潔にまとめ、教員の指示に従って事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
8. 事例報告の書き方3 プレイセラピー		
事前学修	指定された文献を読み、自分の考えや疑問点をまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	学んだことを簡潔にまとめ、教員の指示に従って事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
9. ケーススタディ		
事前学修	指定された文献を読み、自分の考えや疑問点をまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	学んだことを簡潔にまとめ、教員の指示に従って事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
10. 研究論文の書き方1 研究者から学ぶ		
事前学修	指定された文献を読み、自分の考えや疑問点をまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	学んだことを簡潔にまとめ、教員の指示に従って事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
11. 研究論文の書き方2 根拠づけ		
事前学修	指定された文献を読み、自分の考えや疑問点をまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	学んだことを簡潔にまとめ、教員の指示に従って事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
12. 研究論文書き方3 質的データ		
事前学修	指定された文献を読み、自分の考えや疑問点をまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	学んだことを簡潔にまとめ、教員の指示に従って事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
13. 研究論文の書き方4 事例研究		
事前学修	指定された文献を読み、自分の考えや疑問点をまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	学んだことを簡潔にまとめ、教員の指示に従って事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
14. 研究論文の書き方5 当事者研究		
事前学修	指定された文献を読み、自分の考えや疑問点をまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	学んだことを簡潔にまとめ、教員の指示に従って事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
15. 研究論文の書き方6 まとめ		
事前学修	これまでの討論を振り返り、内容や自分の意見などをまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	教員の指示に従い、事後課題に取り組むこと。	2時間程度

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書・参考書等> 森岡正芳・大山泰宏（編）（2014）臨床心理職のための「研究論文の教室」研究論文の読み方・書き方ガイド. 臨床心理学増刊第 6 号. 金剛出版. 日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会（編）（2015）科学の健全な発展のために-誠実な科学者の心得-. 丸善出版. その他、随時指示する。
オフィスアワー 最初の授業で伝える。
連絡先 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 人の心に携わる研究者としての自覚、謙虚で誠実な態度を望む。

臨床心理学演習B		単位数	2単位
授業コード	M5055	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	中内 みさ		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	臨床心理論		
本授業の概要			
事例研究や自分自身の心理実践の体験に基づいて、心理理解の方法など心理臨床実践の基礎を身につける。また、先行研究を通して自分の研究内容を深める。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	事例研究を通して、様々な発達段階や技法に応じた心理臨床の概要や鍵概念を説明できる。		
2	事例研究を通して、様々な発達段階に応じて心理臨床活動を実践する際の留意点を説明できる。		
3	先行研究を通して批判的に考察し修正した自分の修士論文の研究テーマや内容を述べるができる。		
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	レポート(50%)	1/2	
2	発表(30%)	1/2/3	
3	討論への積極的な参加(20%)	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 事例研究1 幼児の支援に関する事例研究			
事前学修	事例をレジュメにまとめ、適用されているカウンセリング/心理療法技法に関して調べておくこと。		2時間程度
事後学修	事例検討を通して得た新しい観点や解釈などを自分の言葉でまとめておくこと。		2時間程度
2. 事例研究2 児童の支援に関する事例研究			
事前学修	事例をレジュメにまとめ、適用されているカウンセリング/心理療法技法に関して調べておくこと。		2時間程度
事後学修	事例検討を通して得た新しい観点や解釈などを自分の言葉でまとめておくこと。		2時間程度
3. 事例研究3 思春期の子ども支援に関する事例研究			
事前学修	事例をレジュメにまとめ、適用されているカウンセリング/心理療法技法に関して調べておくこと。		2時間程度
事後学修	事例検討を通して得た新しい観点や解釈などを自分の言葉でまとめておくこと。		2時間程度
4. 事例研究4 青年の支援に関する事例研究			
事前学修	事例をレジュメにまとめ、適用されているカウンセリング/心理療法技法に関して調べておくこと。		2時間程度
事後学修	事例検討を通して得た新しい観点や解釈などを自分の言葉でまとめておくこと。		2時間程度
5. 事例研究5 成人の支援に関する事例研究			
事前学修	事例をレジュメにまとめ、適用されているカウンセリング/心理療法技法に関して調べておくこと。		2時間程度
事後学修	事例検討を通して得た新しい観点や解釈などを自分の言葉でまとめておくこと。		2時間程度

6. 事例研究 6 高齢者の支援に関する事例研究		
事前学修	事例をレジュメにまとめ、適用されているカウンセリング/心理療法技法に関して調べておくこと。	2時間程度
事後学修	事例検討を通して得た新しい観点や解釈などを自分の言葉でまとめておくこと。	2時間程度
7. 事例研究 7 カウンセリングに関する事例研究		
事前学修	事例をレジュメにまとめ、適用されているカウンセリング技法に関して調べておくこと。	2時間程度
事後学修	事例検討を通して得た新しい観点や解釈などを自分の言葉でまとめておくこと。	2時間程度
8. 事例研究 8 プレイセラピーに関する事例研究		
事前学修	事例をレジュメにまとめ、適用されている心理療法技法に関して調べておくこと。	2時間程度
事後学修	事例検討を通して得た新しい観点や解釈などを自分の言葉でまとめておくこと。	2時間程度
9. 事例研究 9 箱庭療法に関する事例研究		
事前学修	事例をレジュメにまとめ、箱庭療法に関して調べておくこと。	2時間程度
事後学修	事例検討を通して得た新しい観点や解釈などを自分の言葉でまとめておくこと。	2時間程度
10. 修士論文概要の報告 1 予定している修士論文のテーマや内容の概要を報告する		
事前学修	自分が研究したいテーマや内容をレジュメにまとめること。	2時間程度
事後学修	討論で出た意見や疑問、コメントなどを整理しまとめておくこと。	2時間程度
11. 論文講読 1 修士論文のテーマに関する先行研究をまとめたものを発表する		
事前学修	自分の研究テーマに関連した先行研究を探して内容をまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	討論で出た意見や疑問、コメントなどを整理しまとめておくこと。	2時間程度
12. 論文講読 2 修士論文のテーマに関する先行研究を批判的に考察し検討する		
事前学修	自分の研究テーマに関連した先行研究を探して内容をまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	討論で出た意見や疑問、コメントなどを整理しまとめておくこと。	2時間程度
13. 論文講読 3 修士論文のテーマに関して別の立場から論じた先行研究をまとめたものを発表する		
事前学修	自分の研究テーマに関連した先行研究を探して内容をまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	討論で出た意見や疑問、コメントなどを整理しまとめておくこと。	2時間程度
14. 論文講読 4 発表した先行研究を批判的に考察し検討する		
事前学修	自分の研究テーマに関連した先行研究を探して内容をまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	討論で出た意見や疑問、コメントなどを整理しまとめておくこと。	2時間程度
15. 修士論文概要の報告 2 論文講読を通して修正した修士論文の概要を報告する		
事前学修	先行文献研究を通して得た知見をもとに修正した修士論文の概要をレジュメにまとめること。	2時間程度
事後学修	討論で出た意見やコメントなどを参考に、修士論文内容を修正しておくこと。	2時間程度

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈必携書・参考書等〉 随時指示する。
オフィスアワー 最初の授業で伝える。
連絡先 中内 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 人の心に携わる研究者としての自覚、謙虚で誠実な態度を望む。

臨床心理学演習A		単位数	2単位
授業コード	M5070	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	日下 紀子		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	臨床心理論		
本授業の概要			
臨床心理学、精神分析学ならびにその近接領域の文献を講読し、重要な鍵概念と倫理、研究方法の基本を学ぶ。また、現代社会における人間の営みと心をとりにくく課題について、自らのこれまでの経験や文献研究、心理臨床実習体験に基づいた臨床心理学の視点からの問いをたてることを促す。その問いに対して、先行研究をレビューし、適切な研究方法を見つけ、さらに深く追究し考察をすすめるための討論を行う。そして学生自ら研究テーマを確立していくよう指導する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	臨床心理学および精神分析学における重要な概念を理解し、臨床課題に基づいた適切な研究の視点と方法について説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	文献を読みこなし、先行研究を踏まえて、自らの心理臨床領域における問いをたてることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	研究の問いに対して追究し、そのプロセスと結果、考察をまとめることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	研究における倫理と責務を理解し説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	受講態度と取り組み 30%	1/2/3	
2	課題レポート(3回) 30%	1/2/3/4	
3	期末課題レポート 40%	1/2/3/4	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から、現代社会における臨床的課題、心理社会的発達課題との関連について討議する。学生自身は、自らの研究テーマに関する最新の知見や研究、文献をとりあげ、自らの経験と照合しながら多角的・多面的に考え、研究の方向性を確立していくよう授業を展開する。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. オリエンテーション			
事前学修	現在の研究テーマについて説明し、研究方法、仮説など研究計画について発表できるように準備する。	2時間以上	
事後学修	討論をまとめ、疑問や課題に対してさらに必要な文献等で探索を進める	2時間以上	
2. 研究倫理(研究の責任)			
事前学修	研究倫理について事前に学習し、疑問点をまとめておくこと。	2時間以上	
事後学修	研究倫理の不明な点を確認し、なぜ研究倫理が必要であるかを説明できるようにする。	2時間以上	
3. 生命の尊厳と尊重、倫理(個人情報の保護)について			
事前学修	臨床心理士、公認心理師それぞれの倫理と責務について、日本心理臨床学会、厚労省、臨床心理士資格認定協会ホームページを閲覧し、倫理規約等の全文を読み、疑問点や考えをまとめておくこと。	2時間	
事後学修	生命の尊厳と尊重、倫理(個人情報の保護)について説明できるように考えをまとめる。事例論文では、どのように研究倫理が遵守されているのかを論文を読み、確認する	2時間	
4. 臨床心理学における研究法			
事前学修	臨床心理学における各研究法について、事前に教員から指定された文献資料と自身で検索した論文を読み、その要点とそれぞれの論文の疑問点をまとめる。また、自分の研究には、どの研究法がふさわしいかを考える。	2時間	
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深める。	2時間	
5. 基礎文献購読1(無意識と心の機能)			
事前学修	無意識と心の機能について、事前に教員から指定された文献資料と自身で検索した論文を読み、要点とそれぞれの疑問点についてまとめる。	2時間	
事後学修	授業後に印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって次の文献資料などを読み、理解を深める。	2時間	

6. 基礎文献購読2 (精神分析的情緒発達理論)		
事前学修	精神分析的情緒発達理論について、事前に教員から指定された文献資料と自身で検索した論文を読み、要点とそれぞれの疑問点についてまとめる。	2時間
事後学修	精神分析的情緒発達理論について、発達段階ごとの特徴をまとめ、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深める。	2時間
7. 基礎文献購読3 (パーソナリティの発達と病理)		
事前学修	パーソナリティの発達と病理について、事前に教員から指定された文献資料と自身で検索した論文を読み、要点とそれぞれの疑問点についてまとめる。 研究論文の論理的構成を読み取り、批判的な検討を行っておく。	2時間
事後学修	授業後に印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって次の文献資料などを読み、理解を深める。 パーソナリティの特徴と病理についてまとめ、事例論文を読み、クライアントのパーソナリティの特徴と病理がどのように描かれているのかを考える。	2時間
8. 基礎文献購読4 (対象関係論とその展開)		
事前学修	対象関係論とその展開について、事前に教員から指定された文献資料と自身で検索した論文を読み、要点とそれぞれの疑問点についてまとめる。	2時間
事後学修	対象関係論とその展開について、一者心理学、二者心理学の相違点を確認する。印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって次の文献資料などを読み、理解を深める。	2時間
9. 研究の問いを見直し、問題と目的を考える		
事前学修	研究計画とともに研究の問いについて、これまでの先行研究のレビューに基づき、現時点での研究の問題と目的を発表する準備を整える。	2時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに研究計画を見直し、問題と目的とともに仮説、方法を立てる。	2時間
10. 質的研究について		
事前学修	研究テーマに即した質的研究法を選び、その要点と手法について確認し、疑問点や意見をまとめる。	2時間
事後学修	質的研究について、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深める。 エピソードデータをどのように分析解釈するのか、各種質的研究法について、自分の研究テーマにあてはめて考えてみる。	2時間
11. 先行研究購読と討論		
事前学修	自らの研究テーマに関する先行研究論文のリストアップをする。購読した論文の要約を作成する。	2時間
事後学修	それぞれの先行研究がどのように関連しているのかを考え、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深める。	2時間
12. 先行研究の批判的検討		
事前学修	先行研究論文の問題と目的と要旨をまとめようとして、自らの研究テーマにひきつけて今後の課題点は何かを考えておく。	2時間
事後学修	先行研究の批判的検討とともに今後の課題として、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深める。	2時間
13. 先行研究レビューと理論的枠組みの構築		
事前学修	リストアップした先行研究論文のレビューを行うために、それぞれの先行研究の位置づけを考える。 問題と目的を明らかにし、どのように理論的に仮説を検証していくのか、あるいは考察を導くのかを考える。	2時間
事後学修	先行研究のレビューと理論的枠組みの構築を視覚化し、言語化する。	2時間
14. 研究計画の実際		
事前学修	自らの研究テーマに関する先行研究のレビューから問題と目的を明確にし、研究方法を検討し、討論点をまとめる。	2時間
事後学修	研究計画を見直し、問題と目的、あるいは仮説、方法までを確かなものにする。	2時間
15. 調査(実験)研究の準備と中間発表に向けて		
事前学修	研究方法を固めていき、調査研究のための準備として何が必要なかを明らかにし、問題点もまとめる。	2時間
事後学修	調査(実験)研究の準備をすすめ、中間発表にむけて、これまでの成果をまとめる。	2時間

試験等
課題レポート
試験のフィードバックの方法
レポート返却
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義中に随時配布し、指示する。
オフィスアワー
金曜日4限目
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
受講者自身の体験や実感を重ね合わせて問いを立て、考察し、誠実に討論をすすめること。そのためには、現代社会をとりまく心の問題に広く関心を向け、主体的、積極的に追究する姿勢をもつよう努める。

臨床心理学演習B		単位数	2単位
授業コード	M5075	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	日下 紀子		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	臨床心理論		
本授業の概要			
臨床心理学、精神分析学ならびにその近接領域の文献を講読し、重要な鍵概念と倫理、研究方法の基本を学ぶ。また、現代社会における人間の営みと心をとりにくく課題について、自らのこれまでの経験や文献研究、心理臨床実習体験に基づいた臨床心理学の視点からの問いをたてることを促す。その問いに対して、先行研究をレビューし、適切な研究方法を見つけ、さらに深く追究し考察をすすめるための討論を行う。そして学生自ら研究テーマを確立していくよう指導する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	臨床心理学および精神分析学における重要な概念を理解し、臨床課題に基づいた適切な研究の視点と方法について説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	文献を読みこなし、先行研究を踏まえて、自らの心理臨床領域における問いをたてることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	研究の問いに対して追究し、そのプロセスと結果、考察をまとめることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	研究における倫理と責務を理解し説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	受講態度と取り組み 30%	1/2/3	
2	課題レポート(3回) 30%	1/2/3/4	
3	期末課題レポート 40%	1/2/3/4	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から、現代社会における臨床的課題、心理社会的発達課題との関連について討議する。学生自身は、自らの研究テーマに関する最新の知見や研究、文献をとりあげ、自らの経験と照合しながら多角的・多面的に考え、研究の方向性を確立していくよう授業を展開する。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 中間発表後の振り返りと研究テーマの再考			
事前学修	現在の研究テーマについて説明し、研究方法、仮説など研究計画について発表できるように準備する。	2時間以上	
事後学修	討論をまとめ、疑問や課題に対してさらに必要な文献等で探索を進める	2時間以上	
2. 研究倫理(研究の責任)の再考と研究倫理審査を受けるために			
事前学修	研究倫理を再考し、どのような倫理的配慮をおこなうのかをあらかじめ考える	2時間以上	
事後学修	研究倫理の不明な点を確認し、なぜ研究倫理が必要であるかを説明できるようにし、具体的な倫理的配慮の在り方についても検討する 倫理審査を受ける準備をする	2時間以上	
3. 先行研究の批判的検討とレビュー			
事前学修	先行研究を批判的に検討し、自分の研究の問いを明らかにしておく	2時間	
事後学修	研究をすすめるにあたって必要な文献を検索し、論文文献リストを作成し、順次講読したうえで要点をまとめる。	2時間	
文献購読1(海外文献を含む)			
事前学修	事前に教員から指定された文献資料と自身で検索した論文を読み、要点とそれぞれの疑問点についてまとめる。	2時間	
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深める。	2時間	
5. 文献購読2			
事前学修	事前に教員から指定された文献資料と自身で検索した論文を読み、要点とそれぞれの疑問点についてまとめる。	2時間	
事後学修	先行研究より印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって次の文献資料などを読み、理解を深める。	2時間	

6. 文献購読3		
事前学修	事前に教員から指定された文献資料と自身で検索した論文を読み、要点とそれぞれの疑問点についてまとめる。	2時間
事後学修	国内外の先行研究と最近の動向を理解し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深める。	2時間
7. 研究論文の論理的構成		
事前学修	事前に教員から指定された文献資料と自身で検索した論文を読み、要点とそれぞれの疑問点についてまとめる。研究論文の論理的構成を読み取り、批判的な検討を行っておく。	2時間
事後学修	先行研究論文の論理的構成から、自分自身の研究の目次、論立てについて考えてみる	2時間
8. 先行研究の批判的検討1		
事前学修	国内外の研究の動向を知り、事前に教員から指定された文献資料と自身で検索した論文を読み、要点とそれぞれの疑問点についてまとめる。	2時間
事後学修	先行研究の批判的検討を行い、先行研究の今後の課題を含めて、自分の研究の問いを再考しながら、基礎となる理論の習熟に努める。	2時間
9. 研究の問いを見直し、問題と目的を考える		
事前学修	研究計画とともに研究の問いについて、これまでの先行研究のレビューに基づき、現時点での研究の問題と目的を発表する準備を整える。	2時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに研究計画を見直し、問題と目的とともに仮説、方法を立てる。	2時間
10. 研究方法の検討		
事前学修	研究テーマに即した質的研究法を選び、その要点と手法について確認し、疑問点や意見をまとめる。	2時間
事後学修	質的研究について、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深める。エピソードデータをどのように分析解釈するのか、データ分析と必要な検定について考える。	2時間
11. 質的分析に関する先行研究講読と討論		
事前学修	自らの研究テーマに関する先行研究論文のリストアップをする。講読した論文の要約を作成する。	2時間
事後学修	それぞれの先行研究がどのように関連しているのかを考え、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深める。	2時間
12. 問題と目的・仮説をたてる		
事前学修	先行研究論文の問題と目的と要旨をまとめようとして、自らの研究テーマにひきつけて今後の課題点は何かを考えておく。	2時間
事後学修	先行研究の批判的検討とともに今後の課題として、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深める。	2時間
13. 先行研究レビューと理論的枠組みの構築		
事前学修	リストアップした先行研究論文のレビューを行うために、それぞれの先行研究の位置づけを考える。問題と目的を明らかにし、どのように理論的に仮説を検証していくのか、あるいは考察を導くのかを考える。	2時間
事後学修	先行研究のレビューと理論的枠組みの構築を視覚化し、言語化する。	2時間
14. 研究計画の実際		
事前学修	自らの研究テーマに関する先行研究のレビューから問題と目的を明確にし、研究方法を検討し、討論点をまとめる。	2時間
事後学修	研究計画を見直し、問題と目的、あるいは仮説、方法までを確かなものにする。研究倫理審査申請を目指す。	2時間
15. 研究倫理審査に向けて研究計画書を確定する		
事前学修	研究方法を固めていき、調査研究のための準備として何が必要なのかを明らかにし、問題点もまとめ、倫理審査の書類を作成する。	2時間
事後学修	研究倫理審査申請を行い、研究をすすめるために必要な事項を確認し、問題点や課題を明らかにする。	2時間

試験等
課題レポート
試験のフィードバックの方法
レポート返却
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義中に随時配布し、指示する。
オフィスアワー
金曜日4限目
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
受講者自身の体験や実感を重ね合わせて問いを立て、考察し、誠実に討論をすすめること。そのためには、現代社会をとりまく心の問題に広く関心を向け、主体的、積極的に追究する姿勢をもつよう努める。

臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）			単位数	2単位
授業コード	M5150	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	日下 紀子			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	臨床心理論			
本授業の概要				
医療、教育、福祉、保健、産業、司法などの領域に生ずる心理的困難に照準を合わせ、臨床心理学的支援を実践するための心理面接、心理療法について理解し、それを実際に展開していくために必要な専門的知識ならびに基本となる面接法を的確に学ぶ。それを通して臨床心理学的な面接の基本的な技能を身に付ける。 さらに上記領域ごとにおける心理療法の布置や意義の違い、理論的枠組みならびに技法について学び、それぞれの臨床現場で適切な心理支援を行うための見立て、面接の進め方、介入の在り方、多職種連携について講義と演習を通じて学修する。				
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	個人の心理的困難に照準を合わせ、臨床心理学的支援を実践するための心理面接、心理療法について理解し、説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	臨床心理学的支援を展開していくための基本的な面接技能を実行できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	臨床現場で適切な心理支援を行うための見立て、面接の進め方、介入の在り方、多職種連携について理解し、説明できる（特に2年次で行う福祉施設・適応指導教室実習および精神科を中心とする病院実習の基礎を固める）。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4	心理に関する支援を要する者の特性や状況を的確に把握し、どのように見立てるのかを説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
5	心理療法ならびに心理に関する相談、助言、指導等をどのように行うのかを説明し、実行できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	レジメのまとめと発表 40%			1/2/3/4/5
2	課題レポート（論文読解、学習内容の理解度）40%			1/2/3/4/5
3	ディスカッション 20%			1/2/3/4/5
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目	実務あり			
実務経験の授業への活用方法				
医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から事例をとりあげ、ロールプレイなどのワークも取り入れ、臨床心理面接に必要な精神力動の理解について多角的・多面的に考える力の構築を促す授業を展開する。				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧	事前・事後学修内容と時間			
第1回 心理支援・心理療法の意義とその理論				
事前学修	基礎文献を読み、授業内容に関する基本的な知識を理解しておくこと			2時間
事後学修	自らの経験と照合しつつ、事例論文などを読み、理論と臨床実践の実際との理解を結びつけるように努めること			2時間
第2回 力動論に基づく心理療法とその理論				
事前学修	指定された基礎文献を読み、授業内容に関する基本的な知識を理解しておくこと			2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。			2時間
第3回 精神分析的な人格論の基礎				
事前学修	指定された文献の箇所を読み、疑問点や考えをレポートにまとめておくこと			2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。			2時間
第4回 領域別での心理支援と心理療法：クライアントに出会う前に				
事前学修	指定された基礎文献を読み、授業内容に関する基本的な知識を理解しておくこと			2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。			2時間
第5回 初回面接と心理アセスメント				
事前学修	基礎文献を読み、授業内容に関する基本的な知識を理解しておくこと			2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。			2時間

第 6 回 対象者の特性や状況を理解するための耳の傾け方と聴くことの意味		
事前学修	基礎文献を読み、授業内容に関する基本的な知識を理解しておくこと	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。	2時間
第 7 回 面接における観察と基本的な聴き方と心を感じ取る聴き方（演習）		
事前学修	初期の聴き方と構造の意味を理解し、どのように聴くのかをイメージし、自らの表情や相づちなどにも意識を働かせておくこと。	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。	2時間
第 8 回 介入・解釈技法		
事前学修	基礎文献を読み、授業内容に関する基本的な知識を理解し、疑問点や考えをレポートにまとめておくこと	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。	2時間
第 9 回 転移-逆転移 抵抗について		
事前学修	基礎文献を読み、授業内容に関する基本的な知識を理解し、疑問点や考えをレポートにまとめておくこと	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。	2時間
第 10 回 心理面接・心理療法の展開-解釈・洞察について		
事前学修	基礎文献を読み、授業内容に関する基本的な知識を理解し、疑問点や考えをレポートにまとめておくこと	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。	2時間
第 11 回 精神分析的な心理療法の介入と解釈、支持的な働き		
事前学修	基礎文献を読み、授業内容に関する基本的な知識を理解し、疑問点や考えをレポートにまとめておくこと	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。	2時間
第 12 回 治療の行き詰まり		
事前学修	基礎文献を読み、授業内容に関する基本的な知識を理解し、疑問点や考えをレポートにまとめておくこと	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。	2時間
第 13 回 治療の中断や治療者の不在、終結をめぐって		
事前学修	基礎文献並びに事例論文を読み、授業内容に関する基本的な知識を理解し、疑問点や考えをレポートにまとめておくこと	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。	2時間
第 14 回 対象者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択と調整-多職種や家族との連携		
事前学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。	2時間
第 15 回 まとめ		
事前学修	これまで読んできた資料や文献をすべて読み直し、新たな疑問点がないか理解を確認しておくこと	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながら、印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、新たな疑問等をまとめておくこと。	2時間

試験等 期末課題レポート
試験のフィードバックの方法 レポート返却
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p><必携書></p> <p>土居健郎（1992）「新訂 方法としての面接 臨床家のために」医学書院 馬場禮子（1999）精神分析的心理療法の実践 -クライアントに出会う前に 岩崎学術出版社</p> <p><参考書></p> <p>グレン・O・ギャバード著（2014）・奥寺他監訳（2019）「精神力動的精神医学 第5版 その臨床実践」岩崎学術出版社 前田重治（2014）「新図説 精神分析的面接入門」誠信書房 松木邦裕（2016）「改訂増補 私設対象関係論的心理療法入門」金剛出版 松木邦裕（2015）「耳の傾け方-こころの臨床家を目指す人たちへ」岩崎学術出版社 高野晶・山崎孝明（2024）週一回精神分析的サイコセラピー 実践から考える 遠見書房</p> <p>授業中にも適宜紹介する。</p>
オフィスアワー 金曜日4限
連絡先 noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
<p>留意事項</p> <p>方法論の理解と心理面接に臨むためには、自らの心を使い、まず多くの事例報告に触れ、その詳読を重ねること、問いを立て、その問いを追究する、考えることが重要である。さらに自らの経験を通して触れるものは、いずれについても「面接の方法論」という枠組みでとらえてみる態度と耳の傾け方を日頃から意識しておくこと。</p>

臨床心理面接特論 I I		単位数	2単位
授業コード	M5160	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	東 俊一		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	臨床心理論		
本授業の概要			
学習理論を理解したうえで、行動論的アプローチの方法を中心にアセスメントのポイントや基本的指導技法について学び、教育・福祉・医療分野における適用について検討する。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	行動論にもとづいたアセスメントや指導技法について理解したうえで、各分野において指導技法・手続きの選択、および計画を作成できることを目的とする。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内での発表(50/100)	1	
2	レポート(50/100)	1	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
岡山県教育委員会でのスクールカウンセラー、岡山市教育委員会でのスクールカウンセラー、スーパーバイザー業務に携わっている経験から、近年の児童が抱える心理・行動上の問題やそのアセスメントのあり方、それに対する予防と早期発見・支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回：行動と学習			
事前学修	この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間	
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間	
第 2 回：レスポナント条件付け			
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間	
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間	
第 3 回：オペラント条件付け			
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間	
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間	
第 4 回：介入の倫理			
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間	
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間	
第 5 回：測度と観察法			
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間	
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間	

第 6 回：実験計画法		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 7 回：レスポナント技法 1		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 8 回：レスポナント技法 2		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 9 回：行動アセスメント（機能分析）		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 10 回：行動アセスメント（課題分析）		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 11 回：オペラント技法 1（反応増大）		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 12 回：オペラント技法 2（反応減少）		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 13 回：オペラント技法 3（刺激性制御）		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 14 回：オペラント技法 4（シェイピング）		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 15 回：般化		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間

試験等
試験のフィードバックの方法 授業内で発表に対するフィードバックをする。 必要に応じて質問に対応する。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜、指示・紹介する
オフィスアワー 月曜日1限
連絡先 s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）		単位数	2単位
授業コード	M5170	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	日下 紀子		
時間割備考			
授業形態（主）	2 演習		
授業形態（副）	1 講義		
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	臨床心理論		
本授業の概要			
医療、福祉、保健、司法、教育、産業の各領域における人間を多角的にとらえるための心理査定（心理アセスメント）の意義と位置づけ、その理論について学ぶ。臨床現場で高頻度に施行される知能検査、自己評価式人格検査、投影法人格検査の施行法、評定評価法を学ぶとともに、演習を通してその基本的な技法を身に付ける。さらに査定報告書の作成を含めたフィードバックのあり方、適切な心理に関する相談、助言、指導等について事例を通して理解を深め、その実践のための基盤を構築する。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）
1	（公認心理師・臨床心理士の実践における）一般的な臨床現場や2 年次実習現場で高頻度に活用される心理アセスメントの意義ならびに理論と方法について説明できる。		知識・技能/思考・判断・表現力
2	臨床現場で出会う人の心を多角的、多面的に客観的に理解するための心理査定（アセスメント）を実施できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	臨床現場において実施した心理査定（アセスメント）所見を作成し、心理に関する相談、助言、指導等へとつなげて伝えることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	協力被検者を設定し、知能検査、自己評価法、投影法（描画法、PF スタディ、SCT等）、その他の心理検査を正確に実施する。 40 %		1/2/3
2	各心理検査の実施から査定報告文を作成する。 40 %		1/2/3
3	期末確認テスト 20%		
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目	実務あり		
実務経験の授業への活用方法			
医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から、臨床心理査定に必要な技能の習得にむけて、より臨床実践的な授業を組み立て展開する。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回 心理査定の意義と位置づけ			
事前学修	事前に必要な文献資料を読み、なぜ心理査定が必要なのか、その意義について考えと疑問点をまとめておくこと。		2時間
事後学修	各種心理検査査定の意義と目的を確認し、どの領域でどのような検査が実施されているのかをまとめておくこと。		2時間
第 2 回 知能検査の意義・背景理論と位置づけ			
事前学修	各種知能検査の意義、背景理論と位置づけを資料をもとに整理し、疑問点をまとめておくこと。		2時間
事後学修	各種知能検査の道具を確認し、実施法について確認する 他に、各種心理検査の実施を行い、その検査結果の集計処理を行うには、かなりの時間を要することを覚悟し、これからの授業に取り組むこと。		2時間
第 3 回 知能検査の施行法と実施			
事前学修	各種知能検査の道具を確認し、実施法について確認する 他に、各種心理検査の実施を行い、その検査結果の集計処理を行うには、かなりの時間を要することを覚悟し、これからの授業に取り組むこと。		2時間
事後学修	各種知能検査の実施法を確認し修練する。検査協力者を選定し、検査の依頼をし、個別に検査を施行する。		2時間
第 4 回 知能検査の評定評価法と分析			
事前学修	各種知能検査の実施法を修練し、検査協力者への検査を施行する。結果の集計処理を行うために、データを正確に検査用紙に記入しておくこと。		2時間
事後学修	施行した知能検査結果の集計処理と評定分析を行う。それに基づいてプロフィール表を作成する。		2時間
第 5 回 知能検査の所見報告書作成			
事前学修	施行した知能検査結果の集計処理、評定分析を行い、プロフィール表を作成する。それをもとに、どのように解釈できるのかを考え、さらに疑問点をまとめておくこと。		2時間
事後学修	知能検査の所見書を作成する。		2時間以上

第 6 回 自己評価法人格検査の意義・背景理論と位置づけ		
事前学修	自己評価法人格検査の意義・背景理論と位置づけに関する文献を読み、どのような人格検査があるのかを整理し、疑問点や考えをまとめておくこと。	2時間
事後学修	各種人格検査の対象と目的を整理し、実施方法と実施時間を確認しておくこと。	2時間
第 7 回 自己評価法人格検査の施行と評定評価法		
事前学修	TEG, YG検査の対象と目的を整理し、実施方法と実施時間を確認しておくこと。	2時間
事後学修	実施したYG検査、TEGの結果の集計処理を行い、プロフィール表を作成する。そこからどのように解釈できるのか、考えと疑問点をまとめておくこと。	2時間
第 8 回 自己評価法人格検査の所見報告書作成		
事前学修	実施したYG検査、TEGの結果の集計処理を行い、プロフィール表を作成する。そこからどのように解釈できるのか、考えと疑問点をまとめておくこと。	2時間
事後学修	実施したYG検査、TEGの所見報告書を作成する。所見書を作成するにあたって考えたこと、疑問点をまとめてレポートする。	2時間
第 9 回 投影法の意義・背景理論と位置づけ		
事前学修	各種投影法にはどのようなものがあるのかを事前に知らせて、どのような目的でどのような領域で実施されているのかを調べておく。	2時間
事後学修	投影法の意義・背景理論と位置づけを説明できるように考えをまとめ、各種投映法の実施法について確認しておく。	2時間
第 10 回 投影法（描画法）の施行と実施		
事前学修	投影法（樹木画、風景構成法）の実施法と必要な用具について調べて、実施できる心構えをしておく。	2時間
事後学修	投影法（樹木画、風景構成法）の実施法を確認し、実施協力者を選定し、樹木画と風景構成法を実施する。	3時間
第 11 回 投影法（描画法）の評定評価法と分析		
事前学修	投影法の評定分析の方法について確認し、疑問点をまとめておくこと。	2時間
事後学修	実施した投映法の検査結果から分析解釈を行い、自分の解釈と疑問点をまとめておくこと、	2時間
第 12 回 投影法（SCT）とその他の心理検査の施行と評定評価法と分析		
事前学修	SCT、PFスタディの実施法を確認しておくこと。	2時間
事後学修	SCTの協力者を選定し、実施し、データ集計を行うこと。	3時間
第 13 回 投影法（SCT）の所見報告書作成		
事前学修	SCTの結果をもとに、分析解釈のプロセスで気付いたこと、疑問点などをまとめておく。	2時間
事後学修	SCTの結果をもとに、分析解釈を行い、所見報告書を作成する。	2時間
第 14 回 テストバッテリーの組み方と総合的評定評価		
事前学修	各種テストバッテリーにはどのようなものがあるのかを事前に文献資料にあたり、確認しておくこと。対象、目的によってどのような検査が必要なのかを考えておくこと。	2時間
事後学修	これまでに実施したTEG, YG, 樹木画、SCTから総合的にどのような解釈ができるのかを考え、一人のパーソナリティ像を描くように所見を作成する。	3時間
第 15 回 心理査定（アセスメント）からのフィードバックならびに心理的相談、助言、指導への応用		
事前学修	事前に事例論文を読み、フィードバックの在り方について考え、疑問点をまとめておくこと。	2時間
事後学修	フィードバックを行う上での留意点と、どのような見立て、助言ができるのかを考え、自分はどのようにフィードバックするかについて、具体的にレポートすること。	2時間

試験等
期末確認テスト
試験のフィードバックの方法
テストの解答解説をmanabaに掲示する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p><必携書> 願興寺礼子・吉住隆弘（編）（2011）心理検査の実施の初歩-心理学基礎演習Vol.5 ナカニシヤ出版 978-4-7795-0387-0</p> <p><参考書> 竹内健児編（2009）事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方 金剛出版 竹内健児編（2016）心理検査を支援に繋ぐフィードバック-事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方 第2集</p> <p>※各種心理検査用紙，道具，マニュアルなどは、提供し、必要な資料は配布する。</p>
オフィスアワー
木曜日4限目。その他の希望については、教員に申し出て相談すること。
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
検査の実施，評定評価など授業時間外での自主的で継続的な学習が大半を占めるといい。その覚悟をもって主体的に学修を積み重ねる努力を怠らないこと。また検査協力者への倫理的配慮と守秘義務を守り、真摯な態度で検査所見報告書を作成すること。

臨床心理査定演習 I I		単位数	2単位
授業コード	M5180	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	日下 紀子		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	臨床心理論		
本授業の概要			
臨床現場で活用される頻度も高く、信頼性も高度であると共通認識されているところのロールシャッハ法(片口法)について理論と実践の両面から詳細に学び、臨床活用可能なレベルの技能の習得を目指す。			
アクティブラーニングの実施内容		体験学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	ロールシャッハ法の基礎理論を理解し説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	ロールシャッハ法(片口法)の実施からスコアリングができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	ロールシャッハ法(片口法)のベーシックスコアテーブル、サマリーテーブルを作成できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	ロールシャッハ法のデータ分析、評定を行い、それに基づいて検査所見書を作成し、結果を説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	基礎事項に関する課題提出 20%	1/2/3	
2	ロールシャッハ法のローデータのスコアリング、ベーシックスコアリングテーブル、サマリースコアリングテーブルを完成させて提出する。30%	1/2/3	
3	評価所見書の作成提出する。30%	1/2/3/4	
4	被験者にフィードバックする要点について説明できる。20%	1/2/3/4	
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から事例をとりあげ、臨床面接への導入や適用に関する心理アセスメントの在り方について講義する。また、心理査定に必要な精神力動の理解とともに多角的・多面的に考え、分析する力の構築を促す授業を展開する。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回 ロールシャッハ法の基礎理論の理解、意義と位置づけ			
事前学修	ロールシャッハ法とは何か、その意義と位置づけについて文献資料を事前に読み、疑問点をまとめておくこと。	2時間	
事後学修	ロールシャッハ法とは何か、その意義と位置づけについて説明できるようにレポートにまとめる。	2時間	
第 2 回 ロールシャッハ法(片口法)の実施法と記号化法			
事前学修	ロールシャッハ法の実施法を確認しておくこと。実際に実施ができることを想定しながら、疑問点をまとめておく。	2時間	
事後学修	授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。多くの文献、事例に触れること。実際にロールシャッハテストを受検し、そのデータを自己分析するために、協力者(臨床心理士)に依頼すること。	3時間	
第 3 回 反応領域の分類とその意味			
事前学修	テキストの該当箇所を熟読し、反応領域とその意味について確認すること。	2時間	
事後学修	授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。多くの文献、事例に触れること。	2時間	
第 4 回 反応決定因分類(形態反応と運動反応)と(色彩反応と濃淡反応)			
事前学修	決定因子(形態F反応と運動反応 色彩反応と濃淡反応)についての説明を読み、実際の資料と照らし合わせて、疑問点をまとめておくこと。	2時間	
事後学修	授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。多くの文献、事例に触れること。事例の反応をスコアリングするワークをおこなう。	2時間	
第 5 回 反応内容の分類とその意味			
事前学修	反応内容はどのようにスコアリングされるのか、テキストを熟読し、疑問点をまとめておくこと。	2時間	
事後学修	事例の反応内容を実際にスコアリングするワークを繰り返し行う。授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。多くの文献、事例に触れること。	2時間	

第6回 スコアリングの実際：事例のスコアリング・確認テスト		
事前学修	スコアリングのための基礎知識を確認し、実際にスコアリングができるように準備しておくこと	2時間
事後学修	授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。多くの文献、事例に触れること。	2時間
第 7 回 ロールシャッハテストの実施		
事前学修	ロールシャッハテストの実施の流れをテキストを読んで確認し、疑問点をまとめておくこと 授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。 検査協力者を決めておくこと	
事後学修	検査協力者の検査を実施する。データをスコアリングする。	2時間以上
第 8 回 ロールシャッハ法の実施とスコアリングの確認		
事前学修	ロールシャッハ法のスコアリングを確認し、そのデータの集計法を確認し、疑問点をまとめておくこと。	2時間以上
事後学修	授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。 実施したスコアリングから分類を集計し、スコアリングテーブルを作成する。	2時間以上
第 9 回 スコア集計とスコアリングテーブルの作成		
事前学修	実施したスコアリングから分類を集計し、スコアリングテーブルを作成する。 スコアリングテーブルの解釈についてテキストを熟読し、疑問点をまとめておくこと。	2時間以上
事後学修	スコアリングテーブルの解説（量的分析）より、特徴や気づいた点、疑問点をまとめておく	2時間以上
第 10 回 ロールシャッハテストの解釈-系列分析と検査中の行動		
事前学修	系列分析の方法をテキストを熟読し、確認しておくこと。そのうえで疑問点をまとめる。	2時間以上
事後学修	授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。 実際に事例の系列分析を行う。特徴や解釈について言葉にし、そのワークにおける疑問点をまとめる。	2時間以上
第 11 回 総合的な解釈		
事前学修	スコアリングからデータを再度見直し、量的分析と系列分析からどのように総合的に解釈していくのか、その流れを確認しておくこと。また、疑問点や気づいた点をまとめておく。	2時間以上
事後学修	授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。総合的な解釈を試み、それを見直すことを繰り返す。	2時間以上。
第 12 回 事例の解釈の実際-ロールシャッハ法の実例をよみとく		
事前学修	配布した事例をスコアリングし、量的分析、系列分析を行い、解釈を組み立てる。その際、疑問点や気づきをまとめておく。	2時間以上
事後学修	授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。	2時間以上
第 13 回 事例の解釈の実際-所見文の作成		
事前学修	実施事例の所見文を作成してみる。	2時間以上
事後学修	授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。 作成した所見文を見直し、加筆修正を行い、所見文を完成させる。 その際、どのようにフィードバックするのがよいのかを考え、その際の疑問点や心配点についてまとめる。	2時間以上
第 14 回 所見結果のフィードバック		
事前学修	所見をフィードバックする流れについてテキストを読み、確認する。 どのような順番でどのようにフィードバックするのかをイメージし、その際の疑問点や注意点をまとめておく。	2時間以上。
事後学修	授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。 授業の振り返りを行い、キーワードをあげて考えや疑問点をまとめる。	2時間
第 15 回 事例検討・まとめ		
事前学修	配布した資料の事例を読み解き、所見を作成する。その作業中での疑問点や気づきをまとめる。 全授業を振り返り、疑問点や考えをまとめておく。	2時間以上
事後学修	授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。全授業を振り返り、キーワードをあげ、疑問点や考えをまとめておく。	2時間以上

試験等 期末課題レポート
試験のフィードバックの方法 レポート返却
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
片口安史監修，藤岡新治・松岡正明著（1993）「ロールシャッハテストの学習 片口法スコアリング入門」金子書房 978-4-7608-4008-3
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
参考書 片口安史著（1987）「改訂 新・心理診断法」金子書房 978-4-7608-2548-7 馬場禮子（1995）ロールシャッハ法と精神分析-継起分析入門 岩崎学術出版社 馬場禮子（2017）力動的心理査定-ロールシャッハ法の継起分析を中心に 岩崎学術出版社 加藤志ほ子・吉村聡（2016）ロールシャッハテストの所見の書き方-臨床の要請にこたえるために 岩崎学術出版社 978-4-7533-1111-8 加藤志保子監修 吉村聡著（2024）続・ロールシャッハテストの所見の書き方-臨床的な理解と描写のために 岩崎学術出版社 978-4-7533-1249-8 ※検査道具、用紙は、貸出し提供する。
オフィスアワー 火曜日3限目。その他を希望する場合は、教員に申し出て相談すること。
連絡先 noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項 検査の実施、スコアリング、データ集計、量的分析、解釈、所見作成など授業時間外での自主的な学習が大半を占めるといい。多くの事例に触れ、ロールシャッハ法の技術を自主的・主体的に習得するよう覚悟して、主体的に意欲的に取り組み、修練してください。

臨床心理基礎実習A		【単位数	1単位
授業コード	M5190	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	中内 みさ、東 俊一		
時間割備考			
授業形態（主）	2 演習		
授業形態（副）	3 実験・実習・実技		
担当形態	複数		
研究分野（大学院）	臨床心理論		
本授業の概要			
ロールプレイを用いて、コミュニケーション記述の基本、相手を理解する方法、課題を読み取る視点、援助法などを学習する。			
アクティブラーニングの実施内容		体験学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	臨床心理面接の基本技法を身に付け、実践することができる。		
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	演習あるいは実習 50%	1	
2	レポート 50%		
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回 オリエンテーション			
事前学修	予め指定された事前の課題に取り組むこと。		2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。		2時間
第 2 回 基礎文献講読 1 (カウンセリングに関して)			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。		2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。		2時間
第 3 回 基礎文献講読 2 (カウンセリングの聴き方)			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。		2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。		2時間
第 4 回 基礎文献講読 3 (カウンセリングの限界)			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。		2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。		2時間
第 5 回 基礎文献講読 4 (カウンセラーの訓練)			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。		2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。		2時間

第 6 回 基礎文献講読5 (ロールプレイに関して)		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。	2時間
第 7 回 ロールプレイ実習 : 基礎		
事前学修	基礎文献を通して学んだことを整理し、まとめておくこと。	2時間
事後学修	ロールプレイ記録を作成すること。	2時間以上
第 8 回 逐語記録の作成		
事前学修	作成した記録を振り返り、課題を考察しまとめておくこと。	2時間
事後学修	ディスカッションを通して、次回に向けての課題をまとめておくこと。	2時間
第 9 回 逐語記録の検討 1		
事前学修	ロールプレイ記録を作成すること。	2時間以上
事後学修	ディスカッションを通して、次回に向けての課題をまとめておくこと。	2時間
第 10 回 逐語記録の検討 2		
事前学修	ロールプレイ記録を作成すること。	2時間以上
事後学修	ディスカッションを通して、次回に向けての課題をまとめておくこと。	2時間
第 11 回 ロールプレイ実習 : 応答		
事前学修	ロールプレイ記録を作成すること。	2時間以上
事後学修	ディスカッションを通して、次回に向けての課題をまとめておくこと。	2時間
第 12 回 逐語記録の作成		
事前学修	ロールプレイ記録を作成すること。	2時間以上
事後学修	ディスカッションを通して、次回に向けての課題をまとめておくこと。	2時間
第 13 回 逐語記録の検討 1		
事前学修	ロールプレイ記録を作成すること。	2時間以上
事後学修	ディスカッションを通して、次回に向けての課題をまとめておくこと。	2時間
第 14 回 逐語記録の検討 2		
事前学修	ロールプレイ記録を作成すること。	2時間以上
事後学修	ディスカッションを通して、次回に向けての課題をまとめておくこと。	2時間
第 15 回 ロールプレイ実習の振り返り		
事前学修	実習を振り返り、疑問点や課題を整理しまとめておくこと。	2時間
事後学修	実習・ディスカッションを通して見出した自分の課題をまとめておくこと。	2時間

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈参考書等〉 授業中に適宜指示する。
オフィスアワー 授業中に各教員から伝える。
連絡先 代表：中内 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp 他の教員のメールアドレスは授業中に伝える。
留意事項 受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学ぼう、積極的な参加を望む。

臨床心理基礎実習B		単位数	1単位
授業コード	M5195	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	中内 みさ、東 俊一		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	3 実験・実習・実技		
担当形態	複数		
研究分野(大学院)	臨床心理論		
本授業の概要			
ロールプレイを用いて、コミュニケーション記述の基本、相手を理解する方法、課題を読み取る視点、援助法などを学習する。また、精神科病院、精神保健福祉センター、児童福祉施設などの見学を通して、心理臨床の現場について知る。			
アクティブラーニングの実施内容		体験学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	心理臨床面接の基本技法を身に付け、実践することができる。		
2	心理臨床の現場について知り、その意義と内容を述べるができる。		
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	演習あるいは実習 50%	1	
2	レポート 50%	1/2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回 精神科病院見学			
事前学修	見学先施設に関して概要を調べ疑問などをまとめておく。	2時間	
事後学修	施設見学で学んだことをレポートにまとめる。	2時間	
第 2 回 精神保健福祉センター見学			
事前学修	見学先施設に関して概要を調べ疑問などをまとめておく。	2時間	
事後学修	施設見学で学んだことをレポートにまとめる。	2時間	
第 3 回 児童福祉施設見学：児童相談所			
事前学修	見学先施設に関して概要を調べ疑問などをまとめておく。	2時間	
事後学修	施設見学で学んだことをレポートにまとめる。	2時間	
第 4 回 児童福祉施設見学：児童心理治療施設			
事前学修	見学先施設に関して概要を調べ疑問などをまとめておく。	2時間	
事後学修	施設見学で学んだことをレポートにまとめる。	2時間	
第 5 回 ロールプレイ実習：主訴			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	2時間	
事後学修	ロールプレイ記録を作成する。	2時間以上	

第 6 回 逐語記録の作成		
事前学修	作成した記録を振り返り、課題を考察してまとめておく。	2時間
事後学修	ロールプレイ記録を作成する。	2時間以上
第 7 回 逐語記録の検討 1		
事前学修	作成した記録を振り返り、課題を考察してまとめておく。	2時間
事後学修	ロールプレイ記録を作成する。	2時間以上
第 8 回 逐語記録の検討 2		
事前学修	作成した記録を振り返り、課題を考察してまとめておく。	2時間
事後学修	ロールプレイ記録を作成する。	2時間以上
第 9 回 逐語記録の検討 3		
事前学修	作成した記録を振り返り、課題を考察してまとめておく。	2時間
事後学修	ロールプレイ記録を作成する。	2時間以上
第 10 回 ロールプレイ実習：体験過程		
事前学修	作成した記録を振り返り、課題を考察してまとめておく。	2時間
事後学修	ロールプレイ記録を作成する。	2時間以上
第 11 回 逐語記録の作成に関して		
事前学修	作成した記録を振り返り、課題を考察してまとめておく。	2時間
事後学修	ロールプレイ記録を作成する。	2時間以上
第 12 回 逐語記録の検討 1		
事前学修	作成した記録を振り返り、課題を考察してまとめておく。	2時間
事後学修	ロールプレイ記録を作成する。	2時間以上
第 13 回 逐語記録の検討 2		
事前学修	作成した記録を振り返り、課題を考察してまとめておく。	2時間
事後学修	ロールプレイ記録を作成する。	2時間以上
第 14 回 逐語記録の検討 3		
事前学修	作成した記録を振り返り、課題を考察してまとめておく。	2時間
事後学修	ロールプレイ記録を作成する。	2時間以上
第 15 回 ロールプレイ実習の振り返り		
事前学修	今までの実習を振り返り、学んだことや自分の課題を発表できるようにまとめておく。	2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	2時間

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈参考書等〉 授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー 授業中に各教員から伝える。
連絡先 代表：中内 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp 各教員のメールアドレスは授業中に伝える。
留意事項 受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加を望む。

臨床心理実習I (心理実践実習)			単位数	6単位
授業コード	M5200	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期、2024年度第2期、2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	中内 みさ、日下 紀子、東 俊一			
時間割備考				
授業形態 (主)	3 実験・実習・実技			
授業形態 (副)				
担当形態	複数			
研究分野 (大学院)	臨床心理論			
本授業の概要				
2年次において、保健医療領域、教育領域、福祉領域などの学外実習施設での臨床心理実習 (心理実践実習) を行う。そのための知識・技能・態度を身につけるべく、2年間を通じて事前事後の指導を受ける。				
アクティブラーニングの実施内容		体験学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	発達的には幼児期から高齢者まで、病理水準としてはノーマルから精神病圏までのクライアントの心理的支援の基本を理解し、述べるができる。			
2	発達的には幼児期から高齢者まで、病理水準としてはノーマルから精神病圏までのクライアントの心理的支援を実際に行うことができる。			
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	実習先の評価 60%			1/2
2	レポート 20%			1
3	実習日誌 20%			1/2
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1 オリエンテーション (担当: 全員)				
2 多職種連携および地域連携 (担当: 全員)				
3 医療保健領域の事前指導 1 医療保健領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など (担当: 日下)				
4 医療保健領域の事前指導 2 病院での実習において必要な知識・技能に関して (担当: 日下)				
5 医療保健領域での実習 1				
6 医療保健領域での実習 2				
7 医療保健領域での実習 3				
8 医療保健領域での実習 4				
9 医療保健領域での実習 5				
10 医療保健領域での実習 6				
11 医療保健領域での実習 7				
12 医療保健領域での実習 8				
13 実習報告 (担当: 全員)				
14 実習レポートの作成 (担当: 日下)				
15 教育領域の事前指導 1 教育領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など (担当: 東)				
16 教育領域の事前指導 2 適応指導教室での実習において必要な知識・技能に関して (担当: 東)				
17 教育領域での実習 1				
18 教育領域での実習 2				
19 教育領域での実習 3				
20 教育領域での実習 4				
21 実習報告 (担当: 全員)				
22 実習レポートの作成 (担当: 東)				
23 福祉領域の事前指導 1 福祉領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など (担当: 中内)				
24 福祉領域の事前指導 2 児童福祉施設での実習において必要な知識・技能に関して (担当: 中内)				
25 福祉領域での実習 1				
26 福祉領域での実習 2				
27 福祉領域での実習 3				
28 福祉領域での実習 4				
29 実習報告 (担当: 全員)				
30 実習レポートの作成 (担当: 中内)				

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 事前指導の課題（5時間程度）、実習報告の準備（2時間）、事後レポート作成（2時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈必読書・参考書等〉 適時紹介する。
オフィスアワー 授業時に各教員のオフィスアワーを伝える。
連絡先 中内 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp 日下 noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp 東 s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 誠実な態度で臨床実習に臨んでください。特に、個人情報保護には気をつけてください。

臨床心理実習I (心理実践実習)		単位数	6単位
授業コード	M5205	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	中内 みさ、東 俊一、日下 紀子		
時間割備考	継続して来年度も開講 受講者なし		
授業形態 (主)	3 実験・実習・実技		
授業形態 (副)			
担当形態	複数		
研究分野 (大学院)	臨床心理論		
本授業の概要			
保健医療領域、教育領域、福祉領域などの学外実習施設での臨床心理実習 (心理実践実習) を行う。そのための知識・技能・態度などを身につけるべく事前事後指導を行う。			
アクティブラーニングの実施内容		体験学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	発達的には幼児期から高齢者まで、病理水準としてはノーマルから精神病圏までのクライアントの心理的支援の基本を理解し、述べるができる。		
2	発達的には幼児期から高齢者まで、病理水準としてはノーマルから精神病圏までのクライアントの心理的支援を実際に行うことができる。		
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	実習先の評価	60%	1/2
2	レポート	20%	1
3	実習日誌	20%	1/2
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1 オリエンテーション (担当: 全員)			
2 多職種連携および地域連携 (担当: 全員)			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。		各約2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。		各約2時間
3	医療保健領域の事前指導 1	医療保健領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など (担当: 日下)	
4	医療保健領域の事前指導 2	病院での実習において必要な知識・技能に関して (担当: 日下)	
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。		各約2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。		各約2時間
5	医療保健領域での実習 1		
6	医療保健領域での実習 2		
事前学修	施設および教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。		各約2時間
事後学修	施設および教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。		各約2時間
7	医療保健領域での実習 3		
8	医療保健領域での実習 4		
事前学修	施設および教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。		各約2時間
事後学修	施設および教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。		各約2時間
9	医療保健領域での実習 5		
10	医療保健領域での実習 6		
事前学修	施設および教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。		各約2時間
事後学修	施設および教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。		各約2時間

11 医療保健領域での実習7		
12 医療保健領域での実習8		
事前学修	施設および教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	各約2時間
事後学修	施設および教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。	各約2時間
13 実習報告（担当：全員）		
14 実習レポートの作成（担当：日下）		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	各約2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。	各約2時間
15 教育領域の事前指導1 教育領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など（担当：東）		
16 教育領域の事前指導2 適応指導教室での実習において必要な知識・技能に関して（担当：東）		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	各約2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。	各約2時間
17 教育領域での実習1		
18 教育領域での実習2		
事前学修	施設および教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	各約2時間
事後学修	施設および教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。	各約2時間
19 教育領域での実習3		
20 教育領域での実習4		
事前学修	施設および教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	各約2時間
事後学修	施設および教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。	各約2時間
21 実習報告（担当：全員）		
22 実習レポートの作成（担当：東）		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	各約2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。	各約2時間
23 福祉領域の事前指導1 福祉領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など（担当：中内）		
24 福祉領域の事前指導2 児童福祉施設での実習において必要な知識・技能に関して（担当：中内）		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	各約2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。	各約2時間
25 福祉施設での実習1		
26 福祉施設での実習2		
事前学修	施設および教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	各約2時間
事後学修	施設および教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。	各約2時間
27 福祉施設での実習3		
28 福祉施設での実習4		
事前学修	施設および教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	各約2時間
事後学修	施設および教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。	各約2時間
29 実習報告（担当：全員）		
30 実習レポートの作成（担当：中内）		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	各約2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。	各約2時間

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書・参考書等> 適時紹介する。
オフィスアワー 授業時に各教員のオフィスアワーを伝える。
連絡先 日下 noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp 東 s-higashi@post.ndsu.ac.jp 中内 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 誠実な態度で臨床実習に臨んでください。特に、個人情報保護には気をつけてください。

臨床心理実習II		単位数		2単位	
授業コード	M5210	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期、2024年度第2期、2025年度第1期、2025年度第2期	
担当者氏名	青山 新吾、梶原 彰子				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	複数				
研究分野(大学院)	臨床心理論				
本授業の概要					
1年次より継続して学内の臨床実習施設(清心こころの相談室)で学内教員のスーパービジョンのもとに、学生は来談事例を担当し、心理アセスメント法および面接法・遊戯療法等の実習を行う。面接相談の受付から心理面接の実施、記録の書き方、心理面接経過のまとめ方、他機関との連携なども実習する。実習後は定期カンファレンスで報告し、担当教員、学生全員で事例検討を行う。その他多様な心理臨床関連業務(相談室の事務受付・管理運営など含む)の実習を行う。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	心理支援者としての職業倫理及び法的義務を理解し説明できる。			知識・技能	
2	心理支援者としての職業倫理及び法的義務を理解した上で、発達障害、不登校や対人関係、家庭の問題、子育てなどの様々な悩みや不適應問題をもつクライアントへの受理面接ならびに心理療法や遊戯療法、その家族への支援、心理アセスメントなどの臨床を行うことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	臨床経験をもち、病態の理解や対応の基本とともに、支援を要する者への多職種連携および地域連携の意味を理解して表現することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	学内実習の成果をレポートにまとめその内容を発表			1/2/3	
2	臨床実習における担当ケースの記録作成			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
各担当者の実務経験は、病院臨床や学校臨床など異なっている。経験フィールドの違いを、スーパーバイズやカンファレンスで必要に応じて使い分け、教育の質的向上に役立てる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 心理支援・心理療法の意義とその理論					
第2回 心理支援者としての職業倫理及び法的義務					
第3回 心理に関する支援を要するものへのチームアプローチ					
第4回 多職種連携および地域連携					
第5回 学内施設での受理面接と記録の書き方					
第6回 インテークカンファレンス					
第7回 インテークカンファレンスの振り返り					
第8回 学内施設での実習1					
第9回 担当事例のスーパービジョンとその振り返り					
第10回 ケースカンファレンス					
第11回 ケースカンファレンスでの振り返り					
第12回 学内施設での実習2					
第13回 担当事例のスーパービジョンとその振り返り					
第14回 ケースカンファレンス					
第15回 ケースカンファレンスの振り返り					

<p>試験等</p> <p>発表レポートやケース記録は、毎回の授業において適宜作成する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>発表レポートの事前作成や、臨床実習後の記録の作成には60分以上の学修時間を想定している。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>授業内で適宜紹介する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>授業内で指示する。</p>
<p>連絡先</p> <p>青山：saoyama@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>臨床においては、担当クライアントの個人情報に対する倫理観を常に意識して臨んで欲しい。</p>

臨床心理実習II		単位数	2単位
授業コード	M5215	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	青山 新吾、梶原 彰子		
時間割備考	継続して来年度も開講 受講者なし		
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	複数		
研究分野(大学院)	臨床心理論		
本授業の概要			
1年次より継続して学内の臨床実習施設(清心こころの相談室)で学内教員のスーパービジョンのもとに、学生は来談事例を担当し、心理アセスメント法および面接法・遊戯療法等の実習を行う。面接相談の受付から心理面接の実施、記録の書き方、心理面接経過のまとめ方、他機関との連携なども実習する。実習後は定期カンファレンスで報告し、担当教員、学生全員で事例検討を行う。その他多様な心理臨床関連業務(相談室の事務受付・管理運営など含む)の実習を行う。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	心理支援者としての職業倫理及び法的義務を理解し説明できる。	知識・技能	
2	心理支援者としての職業倫理及び法的義務を理解した上で、発達障害、不登校や対人関係、家庭の問題、子育てなどの様々な悩みや不応問題をもつクライアントへの受理面接ならびに心理療法や遊戯療法、その家族への支援、心理アセスメントなどの臨床を行うことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	臨床経験をもち、病態の理解や対応の基本とともに、支援を要する者への多職種連携および地域連携の意味を理解して表現することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	学内実習の成果をレポートにまとめその内容を発表	1/2/3	
2	臨床実習における担当ケースの記録作成と発表	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目	実務あり		
実務経験の授業への活用方法			
各担当者の実務経験は、病院臨床や学校臨床など異なっている。経験フィールドの違いを、スーパーバイズやカンファレンスで必要に応じて使い分け、教育の質的向上に役立てる。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧	事前・事後学修内容と時間		
臨床心理実習に関するインストラクションを行う。			
事前学修	これまでの学びを振り返るため、関連するテキスト、資料を再読して、基礎的事項を押さえる。	2 時間	
事後学修	今後の臨床心理実習の進め方について小レポートを作成して整理する。第2回2時間	2 時間	
第2週～第15週 臨床心理実習の実施 ・学内臨床実習施設における実習 その内容は以下の通りである。			
事前学修	実習の状況に応じ、担当事例の面接準備、スーパーバイズに向けての記録の作成、カンファレンスの発表準備を行う。	各2時間	
事後学修	各実習内容に応じて、スーパーバイズを受けての振り返り記録の作成、カンファレンスにおける発表や事例検討の振り返り記録の作成を行う。	各2時間	
事前学修			
事後学修			
事前学修			
事後学修			
事前学修			
事後学修			

試験等
担当ケースの記録やカンファレンスに向けての資料、臨床心理実習後の記録の作成は、実習の進行に応じて毎時間行う。
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
実習内で適宜紹介する。
オフィスアワー 授業内で示す。
連絡先 青山：saoyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項

心理学研究法特論		単位数	2単位
授業コード	M5300	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	相原 彰子		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	1 講義		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	研究法分野		
本授業の概要			
<p>研究成果の信頼性は、研究計画に左右される。本授業では、実験研究および調査研究に関する研究法について講義するとともに、種々の研究例を取り上げ、研究法の観点から研究批判を行ってもらい、また、事例研究については、研究デザインや研究上の留意点について解説する。</p> <p>授業の後半では、各自の研究計画を発表してもらい、他の受講者から批評をもらい、よりよい研究とするために討論をしてもらう。</p>			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	研究法に関する基本的な知識と技能が身につく、それらを応用することができる。	知識・技能	
2	研究計画が適切か否かを判断し、得られた知見が信頼しうるものかを批判的に検討する能力が身につく。	思考・判断・表現力	
3	受講者自身が研究計画を発表することによって、身につけた知識・技能を適用する力が身につく。	思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	具体的な研究例を批評してもらう (20%)	1/2	
2	受講学生の研究テーマに関わる研究計画の発表 (40%)	2/3	
3	基礎的および臨床的論文を一本ずつ取り上げ、論文の批評をレポートする (40%)	2	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回 研究法の必要性・論文の中の研究法			
事前学修	心理学の研究法の基礎的な書籍や論文を読んで疑問点をまとめておく	2時間	
事後学修	学習内容を振り返って自分自身でまとめ、関連資料を読んで自分の研究についてもどの研究法が良いか考えておく	2時間	
第 2 回 研究法に関する基礎知識			
事前学修	心理学の研究法の基礎的な書籍や論文を読んで疑問点をまとめておく	2時間	
事後学修	学習内容を振り返って自分自身でまとめ、関連資料を読んで自分の研究法の再考をおこなう	2時間	
第 3 回 量的調査 1 (調査用紙作成の留意点)			
事前学修	質問紙調査の論文を事前に読んで、疑問点をまとめておく	2時間	
事後学修	自分の研究を質問紙調査で行うならどのようにしたらよいかなど考えてまとめておく	2時間	
第 4 回 量的調査 2 (心理尺度の作成)			
事前学修	心理尺度の論文、書籍を事前に読んで、疑問点をまとめておく	2時間	
事後学修	自分のリサーチクエスチョンで心理尺度を作成するならどのようにしたらよいかなど考えてまとめておく	2時間	
第 5 回 量的調査 3 (分析方法)			
事前学修	量的調査の分析についての論文、書籍を事前に読んで、疑問点をまとめておく	2時間	
事後学修	自分の研究で分析を行うならどのようにしたらよいかなど考えてまとめておく	2時間	

第 6 回 実験研究 1 (要因計画)		
事前学修	実験についての論文、書籍を事前に読んで、疑問点をまとめておく	2時間
事後学修	自分の研究で実験を行うならどのようにしたらよいかなど考えてまとめておく	2時間
第 7 回 実験研究 2 (実施上の留意点)		
事前学修	実験についての論文、書籍を事前に読んで、疑問点をまとめておく	2時間
事後学修	自分の研究で実験を行うならどのような点に留意したらよいかなど考えてまとめておく	2時間
第 8 回 実験研究 3 (分析方法)		
事前学修	実験の分析についての論文、書籍を事前に読んで、疑問点をまとめておく	2時間
事後学修	自分の研究で実験を行うならどのように分析したらよいかなど考えてまとめておく	2時間
第 9 回 質的研究 1		
事前学修	質的研究法についての論文、書籍を事前に読んで、疑問点をまとめておく	2時間
事後学修	自分の研究で質的研究を行うならどのようにしたらよいかなど考えてまとめておく	2時間
第 10 回 質的研究 2 (実施の留意点)		
事前学修	質的研究法についての論文、書籍を事前に読んで、疑問点をまとめておく	2時間
事後学修	自分の研究で質的研究を行うならどのような点に留意したらよいかなど考えてまとめておく	2時間
第 11 回 質的研究 3 (分析)		
事前学修	質的研究法についての論文、書籍を事前に読んで、疑問点をまとめておく	2時間
事後学修	自分の研究で質的研究を行うならどのように分析したらよいかなど考えてまとめておく	2時間
第 12 回 事例研究 1		
事前学修	事例研究についての論文、書籍を事前に読んで、疑問点をまとめておく	2時間
事後学修	自分の研究で事例研究を行うならどのようにしたらよいかなど考えてまとめておく	2時間
第 13 回 事例研究 2 (実施の留意点)		
事前学修	事例研究についての論文、書籍を事前に読んで、疑問点をまとめておく	2時間
事後学修	自分の研究で事例研究を行うならどのように留意したらよいかなど考えてまとめておく	2時間
第 14 回 事例研究 3 (分析)		
事前学修	事例研究についての論文、書籍を事前に読んで、疑問点をまとめておく	2時間
事後学修	自分の研究で事例研究を行うならどのように分析したらよいかなど考えてまとめておく	2年
第 15 回 研究計画の発表と批評		
事前学修	自身の研究についてレジュメにまとめる	2時間
事後学修	研究の発表や担当教員、他受講者からのコメントを受けて自分の研究計画をまとめて、修正する	2時間

試験等
各4つの研究法のレポートと自身の研究計画を作成する
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー
月曜日3限
連絡先
sugihara@m.ndsu.ac.jp
留意事項
とくになし

心理統計法特論		単位数	2単位
授業コード	M5310	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	相原 彰子		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	研究法分野		
本授業の概要			
統計に関する基本的事項について解説するとともに、収集された大量のデータをどのように整理し、分析するかについて模擬データを用いて解説する。			
アクティブラーニングの実施内容		体験学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	統計解析の様々な手法を理解し、説明できる	知識・技能	
2	論文を読んで統計処理を理解し、研究計画から適切な統計処理を選択できる	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	統計ソフトを実際に使い、模擬データの統計処理ができ、結果を分析することができる	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	受講態度 (20%)	1/2/3	
2	課題レポート (80%)	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回 統計の必要性と基礎知識			
事前学修	統計の基礎知識について書籍や論文等を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間	
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むこと	2時間	
第2回 記述統計			
事前学修	記述統計に関する書籍や論文を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間	
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むこと	2時間	
第3回 相関			
事前学修	相関の資料や講義内で使用する論文を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間	
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことや講義内で相関を自身でも実行してみる	2時間	
第4回 χ^2 検定1			
事前学修	χ^2 検定の資料や講義内で使用する論文を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間	
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことや講義内で使用した χ^2 検定は自身でも実行してみる	2時間	
第5回 χ^2 検定2			
事前学修	χ^2 検定の資料や講義内で使用する論文を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間	
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことや χ^2 検定は自身でも実行してみる	2時間	

第6回 t検定		
事前学修	t検定の資料や講義内で使用する論文を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことやt検定は自身でも実行してみることに	2時間
第7回 分散分析 1		
事前学修	分散分析の資料や講義内で使用する論文を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことや分散分析は自身でも実行してみることに	2時間
第8回 分散分析 2		
事前学修	分散分析の資料や講義内で使用する論文を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことや分散分析は自身でも実行してみることに	2時間
第9回 分散分析 3		
事前学修	分散分析の資料や講義内で使用する論文を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことや講義内で分散分析は自身でも実行してみることに	2時間
第10回 ノンパラメトリック検定		
事前学修	ノンパラメトリック検定の資料や講義内で使用する論文を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことや講義内でノンパラメトリック検定は自身でも実行してみることに	2時間
第11回 因子分析 1		
事前学修	因子分析の資料や講義内で使用する論文を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことや因子分析は自身でも実行してみることに	2時間
第12回 因子分析 2		
事前学修	因子分析の資料や講義内で使用する論文を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことや因子分析は自身でも実行してみることに	2時間
第13回 重回帰分析 1		
事前学修	重回帰分析の資料や講義内で使用する論文を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことや重回帰分析は自身でも実行してみることに	2時間
第14回 重回帰分析 2		
事前学修	重回帰分析の資料や講義内で使用する論文を読んで疑問点をまとめておくこと	2時間
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことや重回帰分析は自身でも実行してみることに	2時間
第15回 実際の統計の利用		
事前学修	自分のリサーチクエスチョンに対して今まで学んだ統計分析のどの分析が使用でき、どのような分析ができるか考えておく	2時間
事後学修	学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことや講義内で使用した統計処理を自分の研究で実行してみることに	4時間

試験等 レポート
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜、資料を配布する。
オフィスアワー 月曜日3限
連絡先 sugihara@m.ndsu.ac.jp
留意事項 統計ソフトは、SPSSを中心に、Web上で利用できるJS-Starを使用する。

発達心理学特論		単位数	2単位
授業コード	M5320	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	湯澤 美紀		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	発達基礎論		
本授業の概要			
自己意識の発達やアイデンティティの確立のプロセスを乳児期から中年期にかけて概観しながら、自尊感情の獲得や青年期の発達課題、そして保護者理解について議論する			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	自己意識の発達やアイデンティティの確立のプロセスを踏まえ、青年に対する進路・職業選択における援助計画の立案・評価を行うことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	中年期以降のアイデンティティの知見を生かしながら、教育現場での保護者理解ができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	レポートに関しては、論理性やオリジナリティを考慮して採点する	1	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回 人間発達学領域におけるアイデンティティ研究の意義			
事前学修	授業の内容を整理するとともに、疑問や不明な点を明らかにし、批判的に考えたことを言語化し、まとめる。(事前・事後各1時間、総計30時間)		
事後学修			
第 2 回 自己意識に関する文献的展望			
事前学修			
事後学修			
第 3 回 乳児期における自己の発見			
事前学修			
事後学修			
第 4 回 1歳児から2歳児の発達と自己意識			
事前学修			
事後学修			
第 5 回 3歳児の発達と自己意識			
事前学修			
事後学修			

第 6 回 4・5 歳児の発達と自己意識		
事前学修		
事後学修		
第 7 回 児童期：多面的な自己像の形成		
事前学修		
事後学修		
第 8 回 思春期にみられる心理的課題		
事前学修		
事後学修		
第 9 回 青年期：アイデンティティの形成にかかる諸要因		
事前学修		
事後学修		
第 10 回 青年期：キャリア形成と自己意識		
事前学修		
事後学修		
第 11 回 青年期にみられる心理的課題		
事前学修		
事後学修		
第 12 回 中年期：アイデンティティの危機と再生		
事前学修		
事後学修		
第 13 回 中年期にみられる心理的課題		
事前学修		
事後学修		
第 14 回 教育現場における保護者支援を考える		
事前学修		
事後学修		
第 15 回 一人ひとりのニーズに応じた援助計画		
事前学修		
事後学修		

試験等 最終レポート
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
随時指示をする
オフィスアワー 水曜日3限
連絡先 yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項 なし

学習心理学特論		【単位数】	2単位
授業コード	M5330	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	堤 幸一		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	基礎分野		
本授業の概要			
認知モデルを軸にして、記憶理論、学習理論を体系的に概説する。学んだ理論的知見を現実生活場面に応用するという視点で考察を促す。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	学習理論・記憶理論を体系的・有機的に知り、説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	学習理論・記憶理論に対して、現実生活への応用の視点が持てる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
3	学習理論・記憶理論の重要用語の定義と意味を説明できる。	知識・技能	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	予習レジュメに基づくプレゼン 20%	1/2/3	
2	確認ドリル(復習) 40%	1/2/3	
3	まとめテスト 40%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1回 記憶・学習・認知の基礎知識			
事前学修	一般心理学(学部での学び)の復習をしておく	45~60分	
事後学修	レジュメを参考に、ドリル1『記憶・学習・認知の基礎知識』へ向けて準備する	15~30分	
2回 認知概説			
事前学修	レジュメ2『認知概説』予習	45~60分	
事後学修	レジュメを参考に、ドリル2『認知概説』へ向けて準備する	15~30分	
3回 記憶理論1(記憶理論基礎)			
事前学修	レジュメ3『記憶理論基礎』予習	45~60分	
事後学修	レジュメを参考に、ドリル3『記憶理論基礎』へ向けて準備する	15~30分	
4回 記憶理論2(記憶モデル)			
事前学修	レジュメ4『記憶モデル』予習	45~60分	
事後学修	レジュメを参考に、ドリル4『記憶モデル』へ向けて準備する	15~30分	
5回 記憶理論3(忘却理論)			
事前学修	レジュメ5『忘却理論』予習	45~60分	
事後学修	レジュメを参考に、ドリル5『忘却理論』へ向けて準備する	15~30分	

6回 記憶・学習の生物学的基盤		
事前学修	レジュメ6『記憶の生物学的基盤』予習	45～60分
事後学修	レジュメを参考に、ドリル6『記憶の生物学的基盤』へ向けて準備する	15～30分
7回 学習理論1(学習理論基礎)		
事前学修	レジュメ7『学習理論基礎』予習	45～60分
事後学修	レジュメを参考に、ドリル7『学習理論基礎』へ向けて準備する	15～30分
8回 学習理論2(古典的条件づけ説)		
事前学修	レジュメ8『古典的条件づけ説』予習	45～60分
事後学修	レジュメを参考に、ドリル8『古典的条件づけ説』へ向けて準備する	15～30分
9回 学習理論3(オペラント条件づけ説)		
事前学修	レジュメ9『オペラント条件づけ説』予習	45～60分
事後学修	レジュメを参考に、ドリル9『オペラント条件づけ説』へ向けて準備する	15～30分
10回 学習理論4(認知説)		
事前学修	レジュメ10『認知説』予習	45～60分
事後学修	レジュメを参考に、ドリル10『認知説』へ向けて準備する	15～30分
11回 学習理論5(社会的学習説)		
事前学修	レジュメ11『社会的学習説』予習	45～60分
事後学修	レジュメを参考に、ドリル11『社会的学習説』へ向けて準備する	15～30分
12回 学習理論6(学習の生物学的制約)		
事前学修	レジュメ12『学習の生物学的制約』予習	45～60分
事後学修	レジュメを参考に、ドリル12『学習の生物学的制約』へ向けて準備する	15～30分
13回 言語学習(言語獲得の学習理論)		
事前学修	レジュメ13『言語学習』予習	45～60分
事後学修	レジュメを参考に、ドリル13『言語学習』へ向けて準備する	15～30分
14回 学習障害(読字障害)		
事前学修	レジュメ14『学習障害』予習	45～60分
事後学修	テスト『全体のまとめ(学習障害を含む)』へ向けて準備する	30～60分
15回 記憶・学習・認知の統合的理解(前半:まとめテスト;後半:認知の総合的理解への解説)		
事前学修	レジュメ15『記憶・学習・認知の統合的理解』予習	45～60分
事後学修		

試験等 <ul style="list-style-type: none"> ・毎時、事前配布されるレジюме(予習)の口頭発表を行う。 ・毎時、ドリル(復習)を課す。 ・最終回に、総合的理解の到達度を測る『全体のまとめ』テストを課す。
試験のフィードバックの方法 <ul style="list-style-type: none"> ・レジюмеの例解およびドリル例解は、授業後Web上に掲載して確認可能にする。 ・ドリル結果は、次回ドリル実施後、フィードバックする。 ・全体のまとめテストの例解および結果は、評価付でWeb上に掲載する。
必携書(教科書販売) 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書(教科書販売以外) 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書> 受講生の興味・関心・必要性に応じて、適宜指定する。 毎回の教材・資料はレジюме形式で配布する。
オフィスアワー ・Web上あるいはメールによる質問を受け付ける
連絡先 s9042@m.ndsu.ac.jp
留意事項

教育心理学特論		単位数	2単位
授業コード	M5360	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	東 俊一		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	基礎分野		
本授業の概要			
<p>教育の場は、教育者と学習者の関係性、およびその間に生じるコミュニケーションによって成立している。関係性の中で展開する教育・学習の過程を心理学的に探究する方法について学び、とくに教育実践に関する事例研究の方法論について検討する。</p> <p>そのため、学生自らが最新のトピックスである、実践研究、事例研究を選択・講読・発表していき、主体的な討論によって学びを深めていく。</p>			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教育の場における教育者と学習者の関係性を理解するための方法論について学び、心理学的な観点から教育・学習について批判的に論じることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内での発表(50/100)	1	
2	レポート(50/100)	1	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
<p>岡山県教育委員会でのスクールカウンセラー、岡山市教育委員会でのスクールカウンセラー、スーパーバイザー業務に携わっている経験から、近年の児童が抱える心理・行動上の問題やその概要・背景の多面的な理解を促す。そして、それらの困難に対するアセスメントのあり方や予防と早期発見・支援、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。</p>			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 発達の過程と環境			
事前学修	この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間	
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間	
2. 教育の意義と課題			
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間	
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間	
3. 学習とは			
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間	
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間	
4. 学習と環境			
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間	
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間	
5. 学習に影響を及ぼす環境要因1(物理的環境)			
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間	
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間	

6. 学習に影響を及ぼす環境要因2（人的環境）		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
7. 学校生活における”集団”の意義		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
8. 学校生活における今日的な課題		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
9. 学校生活における教育的・発達の危機について		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
10. 学業不振に関する事例検討		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
11. 知的障害・発達障害に関する事例検討		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
12. 不登校・ひきこもりに関する事例検討		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
13. いじめに関する事例検討		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
14. 反社会的行動問題に関する事例検討		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
15. 教育現場における心理的支援の意義と課題		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間

試験等
期末レポートによる。
試験のフィードバックの方法
授業内で発表に対するフィードバックをする。 必要に応じて質問に対応する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜、指示・紹介する
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義中に随時配布、指示する。
オフィスアワー
金曜2限
連絡先
s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

社会心理学特論		単位数		2単位
授業コード	M5370	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	芝崎 美和			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	社会分野			
本授業の概要				
<p>個人々の心理を理解する場合、個人の特性や内面だけでなく、社会的環境や対人相互作用に注意を向ける必要がある。本講義では、実践的心理学の基礎として社会心理学的な視点をもつことの重要性について学ぶ。</p>				
アクティブラーニングの実施内容		ディベート		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会心理学の各分野における最新の知見について理解する。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業への参加度(60%)、課題/レポートの成績(40%)の総合評価。		1/2/3	
2				
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
第1回 社会心理学的な視点				
事前学修	社会心理学に関する文献を複数検索しておくこと(30分)			
事後学修				
第2回 集団と自己(幼児期)				
事前学修	集団と自己(幼児期)に関する論文を検索し、発表用資料としてまとめておくこと(1時間)			
事後学修				
第3回 集団と自己(児童期~青年期)				
事前学修	集団と自己(児童期~青年期)に関する論文を検索し、発表用資料としてまとめておくこと(1時間)			
事後学修				
第4回 集団と自己(青年期~)				
事前学修	集団と自己(青年期~)に関する論文を検索し、発表用資料としてまとめておくこと(1時間)			
事後学修				
第5回 主観的自己と社会的自己(幼児期~児童期)				
事前学修	主観的自己と社会的自己(幼児期~児童期)に関する論文を検索し、発表用資料としてまとめておくこと(1時間)			
事後学修				

第 6 回 主観的自己と社会的自己（児童期～青年期）		
事前学修	主観的自己と社会的自己（児童期～青年期）に関する論文を検索し、発表用資料としてまとめておくこと（1時間）	
事後学修		
第 7 回 主観的自己と社会的自己（青年期～）		
事前学修	主観的自己と社会的自己（青年期～）に関する論文を検索し、発表用資料としてまとめておくこと（1時間）	
事後学修		
第 8 回 社会的行動と援助（向社会的側面）		
事前学修	社会的行動と援助（向社会的側面）に関する論文を検索し、発表用資料としてまとめておくこと（1時間）	
事後学修		
第 9 回 社会的行動と援助（非社会的・反社会的側面）		
事前学修	社会的行動と援助（非社会的・反社会的側面）に関する論文を検索し、発表用資料としてまとめておくこと（1時間）	
事後学修		
第 10 回 社会の中での自分らしさ（役割）		
事前学修	社会の中での自分らしさ（役割）に関する論文を検索し、発表用資料としてまとめておくこと（1時間）	
事後学修		
第 11 回 社会の中での自分らしさ（社会的比較）		
事前学修	社会の中での自分らしさ（社会的比較）に関する論文を検索し、発表用資料としてまとめておくこと（1時間）	
事後学修		
第 12 回 社会の中での自分らしさ（非認知能力）		
事前学修	社会の中での自分らしさ（非認知能力）に関する論文を検索し、発表用資料としてまとめておくこと（1時間）	
事後学修		
第 13 回 集団における認知		
事前学修	集団における認知に関する論文を検索し、発表用資料としてまとめておくこと（1時間）	
事後学修		
第 14 回 集団における意思決定		
事前学修	集団における意思決定に関する論文を検索し、発表用資料としてまとめておくこと（1時間）	
事後学修		
第 15 回 社会の中での居場所感		
事前学修	社会の中での居場所感に関する論文を検索し、発表用資料としてまとめておくこと（1時間）	
事後学修		

試験等 授業ごとに課題の提出を求める
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
オフィスアワー 授業終了後に教室で質問を受け付ける
連絡先
留意事項 事前に提出された課題に基づき、ディスカッションを行うため、授業への積極的姿勢を求める

精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)		単位数	2単位
授業コード	M5410	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	中島 誠		
時間割備考	隔年開講(心身医学特論は来年度開講)オンライン授業		
授業形態(主)	1講義		
授業形態(副)	1講義		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	精神・身体分野		
本授業の概要			
<p>精神医学総論と精神症候学について概説する。 各精神疾患についての歴史・原因・症状・経過・診断・治療について概説する。 精神科治療法について概説する。 これらを通して、心理専門職が医療現場で協働していく際の基礎的素養の修得を目指す。</p>			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	精神医学総論を理解し、概要を述べる事が出来る。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	精神症候学を理解し、概要を述べる事が出来る。	知識・技能/思考・判断・表現力	
3	主な精神疾患を理解し、概要を述べる事が出来る。	知識・技能/思考・判断・表現力	
4	精神科治療法を理解し、概要を述べる事が出来る。	知識・技能/思考・判断・表現力	
5	学んだ知識などを心理の臨床で生かす事が出来る。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	レポート(40%)	1/2/3/4	
2	筆記試験(50%)	1/2/3/4	
3	口頭試問(10%)	1/2/3/4/5	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
心理学としての精神医学の理解、精神疾患とは			
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分	
事後学修	授業の振り返り	30分	
精神症状のみかた			
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分	
事後学修	授業の振り返り	30分	
精神疾患の診断			
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分	
事後学修	授業の振り返り	30分	
精神疾患と薬物療法			
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分	
事後学修	授業の振り返り	30分	
心理療法・支援の基本			
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分	
事後学修	授業の振り返り	30分	

多職種連携とリエゾン精神医学		
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分
事後学修	授業の振り返り	30分
統合失調症		
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分
事後学修	授業の振り返り	30分
うつ病、双極症		
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分
事後学修	授業の振り返り	30分
強迫症、不安症群		
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分
事後学修	授業の振り返り	30分
ストレス関連症群、解離症群		
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分
事後学修	授業の振り返り	30分
神経発達症群		
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分
事後学修	授業の振り返り	30分
物質関連症、嗜癖症、秩序破壊的・衝動制御・素行症群		
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分
事後学修	授業の振り返り	30分
児童・思春期における心理的問題		
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分
事後学修	授業の振り返り	30分
ジェンダーをめぐる問題		
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分
事後学修	授業の振り返り	30分
高齢者における心理的問題		
事前学修	「教科書を読む」ということの意味を理解して、講義の前後で教科書を読むこと。 事あるごとに心・精神について考えて話題にすること。	30分
事後学修	授業の振り返り	30分

試験等
レポート、筆記試験、口頭試問を7~8月に行う。
試験のフィードバックの方法
振り返りを行う。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
精神疾患とその治療 第2版 三村將、幸田るみ子、成木迅、新村秀人編 医歯薬出版株式会社 ISBN978-4-263-26685-4 C3347
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー
連絡先
osbss2024@gmail.com
留意事項

臨床大脳発達学特論		単位数	2単位
授業コード	M5430	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	林 泰資		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	精神・身体分野		
本授業の概要			
脳の細胞・組織レベルの理解のもとに、感覚、運動、睡眠などの基礎的な脳機能について論述する。その後、言語、認知、注意、記憶、学習などの高次脳機能と、その障害について学習する。さらに、精神神経疾患、気分障害、発達障害などについて概説する。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	神経科学の理解のもとに、精神神経疾患、気分障害、発達障害の医学的理解を目標とする。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	課題レポート(80%)、質疑応答・受講状況(20%)などから総合的に評価する。		
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：神経科学の基礎（ニューロンとグリア，活動電位，シナプス伝達）			
事前学修	事前に与えられた資料に目を通しておくこと。		
事後学修			
第2回：神経科学の基礎（脳の構造と機能）			
事前学修			
事後学修			
第3回：感覚系と運動系（化学感覚系，視覚，聴覚，平衡感覚，体性感覚）			
事前学修			
事後学修			
第4回：感覚系と運動系（脳・脊髄による運動制御）			
事前学修			
事後学修			
第5回：脳と行動（情動，動機づけ）			
事前学修			
事後学修			

第6回：脳と行動（脳のリズムと睡眠）		
事前学修		
事後学修		
第7回：脳と行動（言語、注意）		
事前学修		
事後学修		
第8回：脳の可塑性（記憶系）		
事前学修		
事後学修		
第9回：脳の可塑性（学習と記憶の分子メカニズム）		
事前学修		
事後学修		
第10回：精神神経疾患（アルツハイマー病）		
事前学修		
事後学修		
第11回：精神神経疾患（脳卒中）		
事前学修		
事後学修		
第12回：精神神経疾患（うつ病）		
事前学修		
事後学修		
第13回：脳機能と発達障害（自閉症スペクトラム障害）		
事前学修		
事後学修		
第14回：脳機能と発達障害（注意欠陥・多動性障害）		
事前学修		
事後学修		
第15回：まとめ		
事前学修		
事後学修		

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
参考資料，文献などを必要に応じて配付または紹介する。
オフィスアワー 1期：月曜日5限
連絡先 yhayashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項 脳科学と周辺領域の書籍，学術雑誌などに目を通し，文献検索を行うなど，関係する情報について考察する機会をもつようつとめてほしい。

障害児心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)			単位数	2単位
授業コード	M5440	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	東 俊一			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	精神・身体分野			
本授業の概要				
知的障害、発達障害を中心にその心理学的特性、行動特性を理解したうえで、社会生活で必要とされるさまざまなレパートリーを形成する技法や、公認心理師としての支援・実践のありかたについて学ぶ。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	子どもの抱える課題を客観的に理解したうえで、適切な技法選択及び指導手続きを作成できることを目的とする。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内での発表(50/100)		1	
2	レポート(50/100)		1	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目		実務あり		
実務経験の授業への活用方法				
岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・学校教育現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた経験、及び岡山県教育委員会でのスクールカウンセラー、岡山市教育委員会でのスクールカウンセラー、スーパーバイザー業務に携わっている経験から、特別な支援を要する児童の教育現場における困難内容と支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
第 1 回：知的障害児のことばと認知の課題に関する理解と支援				
事前学修	この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。			2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。			2時間
第 2 回：知的障害児の運動機能と記憶の課題に関する理解と支援				
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。			2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。			2時間
第 3 回：発達障害の理解(生理・病理)				
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。			2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。			2時間
第 4 回：発達障害の理解(心理・社会生活)				
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。			2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。			2時間
第 5 回：学習理論(レスポネント条件付け)				
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。			2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。			2時間

第 6 回：学習理論（オペラント条件付け）		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 7 回：対人相互作用の形成		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 8 回：生活スキルの形成		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 9 回：コミュニケーション行動の形成		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 10 回：集団参加の促進		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 11 回：概念形成		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 12 回：行動問題へのアプローチ		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 13 回：障害のある子どもの家族支援の実践		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 14 回：障害児福祉に関する理解と公認心理師としての支援の実践		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間
第 15 回：障害者福祉に関する理解と公認心理師としての支援の実践		
事前学修	毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること。	2時間

試験等
試験のフィードバックの方法 授業内で発表に対してフィードバックする。 必要に応じて質問に対応する。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜、指示・紹介する
オフィスアワー 金曜日1限
連絡先 s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

心理療法特論 I		【単位数	2単位
授業コード	M5510	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	日下 紀子		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	心理支援分野		
本授業の概要			
<p>遊戯療法、子どもの精神分析的心理療法、精神分析的な心理療法の理論について説明することができる。</p> <p>非言語的アプローチにおける表現の背景にある子どもの気持ちや象徴意味を読み取ることができる。</p> <p>遊戯療法、子どもの精神分析的な心理療法、精神分析的な心理療法の実践における留意点を述べる。</p>			
<p>遊戯療法、子どもの精神分析的な心理療法、精神分析的な心理療法の理論的背景、非言語的・言語的アプローチ、象徴的表現の意義、臨床実践における留意点や課題などを、具体的な臨床素材を用いて学ぶ。</p> <p>事例論文を取りあげ、事例から学ぶ経験を重ねる。</p>			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	遊戯療法、子どもの精神分析的な心理療法、精神分析的な心理療法の理論について説明することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	非言語的アプローチにおける表現の背景にある子どもの気持ちや象徴意味を読み取ることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	遊戯療法、子どもの精神分析的な心理療法、精神分析的な心理療法の実践における留意点を述べる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	2回のレポート課題(60%)	1/2/3	
2	発表・討論への積極的参加(40%)	1/2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
臨床心理士・公認心理師として医療機関や心理相談専門機関にて精神分析的な心理療法、遊戯療法、親面接、心理アセスメント、心理相談ならびに教育相談に携わっている経験から、心理療法の理論と方法、実践について事例を通して理解と学びを進める。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回 心理療法とは何か			
事前学修	文献の指定された箇所をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートにまとめておくこと。	2時間	
事後学修	授業後は、討論を振り返り、異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度文献を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間	
第2回 遊戯療法1 原理と歴史			
事前学修	文献の指定された箇所をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートにまとめておくこと。	2時間	
事後学修	授業後は、討論を振り返り、異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度文献を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間	
第3回 遊戯療法2 子どもの精神分析的な心理療法の歴史と心の世界			
事前学修	文献の指定された箇所をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートにまとめておくこと。	2時間	
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度文献を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間	
第4回 遊戯療法3 アクスラインを読む			
事前学修	文献の指定された箇所をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートにまとめておくこと。	2時間	
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度文献を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間	
第5回 遊戯療法4 子どもの精神分析的な心理療法の基本			
事前学修	文献の指定された箇所をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートにまとめておくこと。	2時間	
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度文献を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間	

第6回 相談の受付から心理療法のプロセス		
事前学修	文献の指定された箇所をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートにまとめておくこと。	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度文献を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
第7回 遊戯療法6 事例検討① 幼児期の子どもの遊戯療法		
事前学修	事例論文をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートにまとめておくこと。エリクソンの乳幼児期の発達段階、心理社会発達課題を確認しておくこと。	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度事例を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
第8回 遊戯療法7 事例検討② 学童期の子どものプレイセラピー		
事前学修	事例論文をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートにまとめておくこと。 エリクソンの学童期の発達段階、心理社会発達課題を確認しておくこと。	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度事例を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
第9回 遊戯療法8 事例検討③ 自閉スペクトラム症と子どもの精神分析的な心理療法		
事前学修	事例論文をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートにまとめておくこと。 自閉スペクトラム症の子どもの特徴や課題について理解をすすめておくこと。	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度事例を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
第10回 親面接の基本		
事前学修	文献の指定された箇所をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートにまとめておくこと。	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度事例を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
第11回 精神分析的な心理療法のためのアセスメントの実際		
事前学修	文献の指定された箇所をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートにまとめておくこと。	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度事例を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
第12回 被虐待児のこころの世界		
事前学修	文献の指定された箇所をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートにまとめておくこと。	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度事例を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
第13回 事例検討④ ト라우マ体験を抱える人の精神分析的アプローチ		
事前学修	事例論文をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートやレジメにまとめて発表する準備をすること。	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度事例を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
第14回 事例検討⑤ 成人の精神分析的な心理療法		
事前学修	事例論文をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートにまとめておくこと。	2時間
事後学修	異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度事例を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
第15回 全体の振り返り・まとめ		
事前学修	これまで読んできた論文をすべて読み直し、新たな疑問点がないか、理解を確認しておくこと	2時間
事後学修	全体の振り返りを通して、異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度文献を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと。 印象に残ったキーワードをあげ、主体的に言語化し、さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p>〈必携書〉 アクスライン「遊戯療法」岩崎学術出版社 鶴飼奈津子（2017） 子どもの精神分析的心理療法の基本 改訂版 誠信書房</p> <p>〈参考書等〉 必要に応じて紹介する。</p>
<p>オフィスアワー 最初の授業時に伝える。</p>
<p>連絡先 noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加と誠意ある態度を望む。</p>

心理療法特論ⅠⅠ		【単位数	2単位
授業コード	M5520	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	中内 みさ		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	心理支援分野		
本授業の概要			
<p>心理療法の治療論について考察する。講読形式を取り入れ、心理療法とは何かを考察する。また、各治療論から見た臨床実践例について、ディスカッションを行い、各療法の理解を深める。さらに、実際の事例検討会で述べられたコメントやスーパービジョンの記録から、セラピストの心構えや事例検討会の意義などを学ぶ。これらの検討を通して、自分なりの臨床観、心理治療観を打ち立てていく。</p>			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	さまざまな学派における心理療法の治療論についての理解を持ち、関係性の理解を踏まえて自分の心理臨床論を論じることができる。		
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	期末レポート 50%	1	
2	授業時のディスカッションへの参加 50%	1	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 「素足の心理療法」を読む1 沈黙の時間、根本原則、自灯明			
事前学修	指定された箇所を読み、自分の意見や疑問等をまとめておくこと。	2時間	
事後学修	討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをまとめること。	2時間	
2. 「素足の心理療法」を読む2 共業性、施無畏、素足であること			
事前学修	指定された箇所を読み、自分の意見や疑問等をまとめておくこと。	2時間	
事後学修	討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをまとめること。	2時間	
3. 「素足の心理療法」を読む3 含羞性、畏敬性、若い心理臨床家へ			
事前学修	指定された箇所を読み、自分の意見や疑問等をまとめておくこと。	2時間	
事後学修	討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをまとめること。	2時間	
4. 心理療法を考える			
事前学修	指定された文献を読み、事例に関して自分の意見等をまとめておくこと。	2時間	
事後学修	討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをまとめること。	2時間	
5. 来談者中心療法から見た事例			
事前学修	来談者中心療法の理論の概要をまとめておくこと。	2時間	
事後学修	討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをまとめること。	2時間	

6. 精神分析の観点から見た事例		
事前学修	精神分析の理論をまとめておくこと。	2時間
事後学修	討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをまとめること。	2時間
7. 分析心理学から見た事例		
事前学修	分析心理学の理論をまとめておくこと。	2時間
事後学修	討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをまとめること。	2時間
8. 行動療法から見た事例		
事前学修	主な行動療法の理論をまとめておくこと。	2時間
事後学修	討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをまとめること。	2時間
9. 認知行動療法から見た事例		
事前学修	認知行動療法の理論をまとめておくこと。	2時間
事後学修	討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをまとめること。	2時間
10. 統合的アプローチから見た事例		
事前学修	統合的アプローチの理論をまとめておくこと。	2時間
事後学修	討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをまとめること。	2時間
11. 「河合隼雄語録」を読む1 面接場面の具体的問題		
事前学修	指定された箇所を読み、自分の意見や疑問等をまとめておくこと。	2時間
事後学修	討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをまとめること。	2時間
12. 「河合隼雄語録」を読む2 クライアントの内的力動		
事前学修	指定された箇所を読み、自分の意見や疑問等をまとめておくこと。	2時間
事後学修	討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをまとめること。	2時間
13. 「河合隼雄語録」を読む3 クライアント-セラピスト関係		
事前学修	指定された箇所を読み、自分の意見や疑問等をまとめておくこと。	2時間
事後学修	討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをまとめること。	2時間
14. 「河合隼雄語録」を読む4 セラピストとしての問題		
事前学修	指定された箇所を読み、自分の意見や疑問等をまとめておくこと。	2時間
事後学修	討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをまとめること。	2時間
15. 「河合隼雄語録」を読む5 治療観から人間観へ		
事前学修	指定された箇所を読み、自分の意見や疑問等をまとめておくこと。	2時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。	2時間

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p><必携書> 霜山徳爾（1989）素足の心理療法，みすず書房 河合隼雄 河合俊雄（編）（2010）生きたことば、動くこころ 河合隼雄語録，岩波出版</p> <p><参考書等> 適時、紹介する。</p>
<p>オフィスアワー 最初の授業で伝える。</p>
<p>連絡先 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp</p>
留意事項

投影法特論		単位数	2単位
授業コード	M5530	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	中内 みさ		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	心理支援分野		
本授業の概要			
<p>投影法について、被検査者との関係性を重点において検討を行う。ロールシャッハをはじめとする投影法の特徴やメリット・デメリットなどについて理解を深めることを目的とする。本講義では特に描画を用いた投影法を取り上げる。バウムテストや風景構成法などを実際に体験することを通して分析・解釈の方法を学ぶ。また、心理臨床の実際における投影法の実践や理解の仕方について考察する。</p>			
アクティブラーニングの実施内容		体験学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	投影法の特徴や分析・解釈について説明できる。		
2	被験者からのコミュニケーションを理解するための投影法を使ったアプローチについて説明できる。		
3	バウムテストや風景構成法など描画を用いた投影法を実施・分析し、自分なりの考察を述べるができる。		
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	レポート 60%		1/2/3
2	発表・討論への積極的参加 40%		2/3
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. オリエンテーション-投影法とは			
事前学修	予め指示された課題に取り組むこと。		2時間程度
事後学修	授業の内容をまとめ、指示された事後の課題に取り組むこと。		2時間程度
2. 描画を読み解くということ			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。		2時間程度
事後学修	授業の内容をまとめ、指示された事後の課題に取り組むこと。		2時間程度
3. 心理臨床の実際における投影法理解について			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。		2時間程度
事後学修	授業の内容をまとめ、指示された事後の課題に取り組むこと。		2時間程度
4. バウムテスト1-体験と解釈			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。		2時間程度
事後学修	授業の内容をまとめ、指示された事後の課題に取り組むこと。		2時間程度
5. バウムテスト2-事例			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。		2時間程度
事後学修	授業の内容をまとめ、指示された事後の課題に取り組むこと。		2時間程度

6. HTP1-体験と解釈		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	2時間程度
事後学修	授業の内容をまとめ、指示された事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
7. HTP2-事例		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	2時間程度
事後学修	授業の内容をまとめ、指示された事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
8. 風景構成法1-体験		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	2時間程度
事後学修	授業の内容をまとめ、指示された事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
9. 風景構成法2-解釈		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	2時間程度
事後学修	授業の内容をまとめ、指示された事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
10. 風景構成法3-事例		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	2時間程度
事後学修	授業の内容をまとめ、指示された事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
11. Squiggleの体験と事例		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	2時間程度
事後学修	授業の内容をまとめ、指示された事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
12. MSSMの体験と事例		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	2時間程度
事後学修	授業の内容をまとめ、指示された事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
13. 自由画・家族画に関して		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	2時間程度
事後学修	授業の内容をまとめ、指示された事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
14. 箱庭療法の体験と解釈		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組むこと。	2時間程度
事後学修	授業の内容をまとめ、指示された事後の課題に取り組むこと。	2時間程度
15. まとめ		
事前学修	これまでの学びや経験を振り返り、疑問などをまとめておくこと。	2時間程度
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組むこと。	2時間程度

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈参考書〉 授業中に随時配布、指示する。
オフィスアワー 最初の授業時に伝える。
連絡先 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）		単位数	2単位
授業コード	M5610	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	青山 新吾		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	インクルーシブ教育、特別支援教育、学校教育臨床		
本授業の概要			
文部科学省によるスクールカウンセラー事業も、中学校を中心とする時代から、幼稚園、小学校、高等学校とその対象範囲が拡大する時代へと移った。そこで、各世代に特有の問題や、先生方との連携や協働の在り方、不登校やいじめ、発達障害等のトピックについての臨床心理学的知見について取り上げる。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	学校臨床心理学の実践的知見について理解する。	知識・技能	
2	学校臨床心理学の実践的知見を理解した上で、それを自分なりの構成と表現で発表できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業での発表内容 30%	1/2	
2	授業での貢献度（ディスカッションでの発言） 30%	1/2	
3	総合レポート 40%	1/2	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目	あり		
実務経験の授業への活用方法			
小学校教員、県教育委員会指導主事、大学心理相談室相談員、大学要員として複数自治体の特別支援教育専門相談員の実務経験を活かし、理論と実践を往還させながらの教育を行う。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回：学校生活の外観			
事前学修	学校生活について関連文献やサイトにアクセスし、基礎的事項を押さえる。	2 時間	
事後学修	学校生活について関連文献やサイトにアクセスするとともに、授業内で紹介する受講生のコメントや関連トピックについて各自で追究し、自身のことばでまとめる。	2 時間	
第 2 回：学校教育のシステム、文化			
事前学修	学校教育のシステムや学校文化について関連文献やサイトにアクセスし、基礎的事項を押さえる。	2 時間	
事後学修	学校生活について関連文献やサイトにアクセスするとともに、授業内で紹介する受講生のコメントや関連トピックについて各自で追究し、自身のことばでまとめる。	2 時間	
第 3 回：学校臨床心理学とは			
事前学修	学校臨床心理学について関連文献やサイトにアクセスし、基礎的事項を押さえる。	2 時間	
事後学修	学校臨床心理学について関連文献やサイトにアクセスするとともに、授業内で紹介する受講生のコメントや関連トピックについて各自で追究し、自身のことばでまとめる。	2 時間	
第 4 回：不登校をめぐる現状			
事前学修	不登校をめぐる現状について関連文献やサイトにアクセスし、基礎的事項を押さえる。	2 時間	
事後学修	不登校をめぐる現状について関連文献やサイトにアクセスするとともに、授業内で紹介する受講生のコメントや関連トピックについて各自で追究し、自身のことばでまとめる。	2 時間	
第 5 回：不登校の児童生徒への学校心理臨床			
事前学修	不登校の児童生徒への学校心理臨床について関連文献やサイトにアクセスし、基礎的事項を押さえる。	2 時間	
事後学修	不登校の児童生徒の現状やについて関連文献やサイトにアクセスするとともに、授業内で紹介する受講生のコメントや関連トピックについて各自で追究し、自身のことばでまとめる。	2 時間	

第 6 回：いじめ・暴力行為をめぐる現状と支援		
事前学修	いじめ・暴力行為をめぐる現状について関連文献やサイトにアクセスし、基礎的事項を押さえる。	2 時間
事後学修	不登校の児童生徒への学校心理臨床について関連文献やサイトにアクセスするとともに、授業内で紹介する受講生のコメントや関連トピックについて各自で追究し、自身のことばでまとめる。	2 時間
第 7 回：特別支援教育とは		
事前学修	特別支援教育について関連文献やサイトにアクセスし、基礎的事項を押さえる。	2 時間
事後学修	特別支援教育について関連文献やサイトにアクセスするとともに、授業内で紹介する受講生のコメントや関連トピックについて各自で追究し、自身のことばでまとめる。	2 時間
第 8 回：特別支援教育の具体的な取組		
事前学修	特別支援教育の具体的な取組について関連文献やサイトにアクセスし、基礎的事項を押さえる。	2 時間
事後学修	特別支援教育の具体的な取組について関連文献やサイトにアクセスするとともに、授業内で紹介する受講生のコメントや関連トピックについて各自で追究し、自身のことばでまとめる。	2 時間
第 9 回：今、学校で		
事前学修	今、学校で生じているトピックについて関連文献やサイトにアクセスし、基礎的事項を押さえる。	2 時間
事後学修	今、学校で生じている具体的なトピックについて関連文献やサイトにアクセスするとともに、授業内で紹介する受講生のコメントや関連トピックについて各自で追究し、自身のことばでまとめる。	2 時間
第 10 回：発達障害のある子どもとの現状と臨床の心構え		
事前学修	発達障害のある子どもとの現状と臨床について関連文献やサイトにアクセスし、基礎的事項を押さえる。	2 時間
事後学修	発達障害のある子どもとの現状と臨床について関連文献やサイトにアクセスするとともに、授業内で紹介する受講生のコメントや関連トピックについて各自で追究し、自身のことばでまとめる。	2 時間
第 11 回：保護者への支援		
事前学修	保護者への支援について関連文献やサイトにアクセスし、基礎的事項を押さえる。	2 時間
事後学修	保護者への支援について関連文献やサイトにアクセスするとともに、授業内で紹介する受講生のコメントや関連トピックについて各自で追究し、自身のことばでまとめる。	2 時間
第 12 回：学校臨床のアセスメント		
事前学修	学校臨床におけるアセスメントについて関連文献やサイトにアクセスし、基礎的事項を押さえる。	2 時間
事後学修	学校臨床のアセスメントについて関連文献やサイトにアクセスするとともに、授業内で紹介する受講生のコメントや関連トピックについて各自で追究し、自身のことばでまとめる。	2 時間
第 13 回：関係諸機関との連携		
事前学修	関係諸機関との連携について関連文献やサイトにアクセスし、基礎的事項を押さえる。	2 時間
事後学修	関係諸機関との連携について関連文献やサイトにアクセスするとともに、授業内で紹介する受講生のコメントや関連トピックについて各自で追究し、自身のことばでまとめる。	2 時間
第 14 回：多様性の時代—インクルーシブ教育—		
事前学修	インクルーシブ教育について関連文献やサイトにアクセスし、基礎的事項を押さえる。	2 時間
事後学修	インクルーシブ教育について関連文献やサイトにアクセスするとともに、授業内で紹介する受講生のコメントや関連トピックについて各自で追究し、自身のことばでまとめる。	2 時間
第 15 回：まとめと振り返り		
事前学修	これまでの学びに関連する資料、文献、サイトを見直して学びの内容を整理する。	2 時間
事後学修	これまでの学びに関連する資料、文献、サイト等にアクセスし、学びを整理する	2 時間

試験等 15回の講義後に総合レポートの作成を求める。
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
日本学校心理学会編「学校心理学ハンドブック第2版」教育出版 その他、授業中に適宜配布する。
オフィスアワー 講義中に指示する。電子メール等による質問、相談は随時受け付ける。
連絡先 saoyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項 自身の体験や臨床実感と重ねながらディスカッションを進めていきたい。

司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）		単位数	2単位
授業コード	M5620	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	浅田 慎太郎		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	専門関連科目		
本授業の概要			
司法・犯罪分野に関わる心理職の実践について、学びます。 司法・犯罪分野の基礎を理解し、犯罪心理学、司法心理学、臨床心理学、精神分析的観点からの非行・犯罪理解を深めます。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	司法・犯罪分野に関わる臨床心理士および公認心理師の実践を理解することができる。		知識・技能
2	非行・犯罪を、様々な心理学観点や理論から説明することができる。		思考・判断・表現力
3	非行や犯罪の問題を抱えた人たちへの支援について理解し、実践への準備を整えることができる。		主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	発表内容や講義内でのディスカッションなどから評価を行います。 発表内容：50点 到達目標に関する到達度の確認 講義内でのディスカッション：50点 到達目標に関する到達度の確認 総計100点評価		1
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目	実務あり		
実務経験の授業への活用方法			
心理臨床という自らの体験を重視する作業について、実務経験からの実践知を伝えていく。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧	事前・事後学修内容と時間		
司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（1）：概要			
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと		2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと		2時間
司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（2）：刑務所等矯正施設			
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと		2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと		2時間
司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（3）：少年施設			
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと		2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと		2時間
司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（4）：民間施設			
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと		2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと		2時間
非行・犯罪の心理学について①			
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと		2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと		2時間

非行・犯罪の心理学について②		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	2時間
非行・犯罪の心理学について③		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	2時間
被害という経験、被害者と加害者の関係、被害者の支援について		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	2時間
非行・犯罪の問題を抱えた人への実践①：概要		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	2時間
非行・犯罪の問題を抱えた人への実践②：非行少年、未成年への支援		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	2時間
非行・犯罪の問題を抱えた人への実践③：成人への支援		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	2時間
非行・犯罪の問題を抱えた人への実践の概要④：予後		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	2時間
論文精読①：精神分析的に犯罪を理解する		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	2時間
論文精読②：精神分析的に犯罪にアプローチする		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	2時間
まとめ		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	2時間

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p>〈参考書〉犯罪統計について：『犯罪白書』『警察白書』</p> <p>〈参考書〉犯罪心理学について：『犯罪心理学事典』『犯罪行動の心理学〔原著第6版〕』『犯罪心理学-行動科学のアプローチ』</p> <p>〈参考書〉司法臨床について：『司法心理療法-犯罪と非行への心理学的アプローチ』『児童虐待・解離・犯罪：暴力犯罪への精神分析的アプローチ』</p> <p>このあたりがおすすめです。興味があれば読んでみてください。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>授業終了後に教室で質問を受け付けます。</p>
<p>連絡先</p> <p>manabaから連絡を受け付けます。</p>
<p>留意事項</p> <p>4回の欠席があった場合、単位の認定を行いません。</p>

産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）		単位数	2単位
授業コード	M5630	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	國村 博子		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）	1 講義		
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	専門関連科目		
本授業の概要			
産業・労働領域におけるメンタルヘルスの現状と対策に関する基本的な理解を深め、専門職に求められる姿勢を身につけることで、他職種とのチーム連携を推進し、効果的な心理的支援を行うための知識の習得を目指す。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	産業・労働分野において心理職が関わる問題を理解し説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	産業・労働分野における心理職の支援内容や実践内容を理解し説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
3	職場におけるメンタルヘルス対策の重要性について自身の視点で論じることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	受講態度, リアクションペーパー: 70%	1/2/3	
2	期末レポート: 30%	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目	実務あり		
実務経験の授業への活用方法			
産業カウンセラー, 公認心理師, 社会保険労務士として, 会社組織の産業保健に携わる経験から, 現状や昨今の課題への対応等, 事例を用いて解説する。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回 産業・労働分野のメンタルヘルスの歴史			
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間	
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間	
第 2 回 労働関連法規			
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間	
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間	
第 3 回 労災認定と事業者責任			
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間	
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間	
第 4 回 安全配慮義務			
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間	
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間	
第 5 回 過重労働と夜勤労働者の健康管理			
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間	
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間	

第 6 回 安全衛生委員会と心の健康作り計画		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
第 7 回 職業性ストレスに関する諸理論と職場の対策		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
第 8 回 ストレスチェック制度とその運用		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
第 9 回 4 つのケア（セルフケア，ラインによるケア，事業場内産業保健スタッフ等によるケア，事業場外資源によるケア）		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
第 10 回 1次予防（メンタルヘルス不調を未然に防止する）		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
第 11 回 2次予防（メンタルヘルス不調を早期に発見し，適切な措置を行う）		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
第 12 回 3次予防（メンタルヘルス不調となった労働者の職場復帰の支援等を行う）		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
第 13 回 職場のハラスメント対策		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
第 14 回 多様な労働者への対応		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
第 15 回 キャリア支援（ジョブカード制度，セルフキャリアドッグ制度）		
第 16 回 まとめ・期末レポート		
事前学修	教員から指示された事前の課題に取り組むこと	おおよそ2時間
事後学修	教員から指示された事後の課題に取り組むこと	おおよそ2時間

家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）		単位数	2単位
授業コード	M5640	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	高野 恵代		
時間割備考	9月未定 1～5時限		
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）	1 講義		
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	専門関連科目		
本授業の概要			
本講義の目的は、家族が人間の発達にどのような意味をもつのか、ライフサイクルの視点から、社会的・歴史的・文化的文脈の中に位置づけて考察できるようになることである。とくに、個人や家族の抱えるさまざまな心理的・行動的な困難や問題を家族という文脈の中で理解し、解決に向けた援助を行っていかうとする対人援助方法論である「家族療法」を中心に概説する。理論だけでなく、医療、教育、福祉、司法領域で行われている実践についても紹介し、家族を取り巻く環境や社会についても取り上げる。また、家族アセスメントで使用される心理検査についても体験し、実践に繋がる知見を学ぶ。			
アクティブラーニングの実施内容		体験学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	(1) 家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法について理解し、具体的に説明ができる。		
2	(2) 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について理解し、具体的に説明ができる。		
3	(3) 心理に関する相談、助言、指導等に対し、上記の(1)及び(2)を応用できる。		
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	(1) 授業内での取り組み姿勢（発表回数、ディスカッションへの参加度）30%。	1/2/3	
2	(2) 最終レポート（70%）。	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回 オリエンテーション：家族と社会			
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。	
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。	
第 2 回 家族システム論：家族をどう捉えるか			
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。	
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。	
第 3 回 家族を理解するための概念：家族をどのように見立てるか			
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。	
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。	
第 4 回 家族の発達（1）：独身の若い成人期			
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。	
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。	
第 5 回 家族の発達（2）：結婚による家族の成立期			
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。	
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。	

第 6 回 家族の発達 (3) : 乳幼児を育てる段階		
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。
第 7 回 家族の発達 (4) : 小学生の子どもとその家族		
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。
第 8 回 家族の発達 (5) : 思春期・青年期の子どもとその家族		
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。
第 9 回 家族の発達 (6) : 老年期の家族		
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。
第 10 回 家族への臨床的アプローチ		
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。
第 11 回 夫婦関係の危機と援助		
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。
第 12 回 子育てをめぐる問題と援助		
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。
第 13 回 家族が経験するストレスと援助		
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。
第 14 回 家族の中のコミュニケーション		
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。
第 15 回 家族アセスメント : 心理検査の実施と分析および解釈の体験		
事前学修	予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと。	2 時間程度。
事後学修	授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること。	2 時間程度。

<p>試験等</p> <p>授業最終回にレポートを提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>課題については授業内でフィードバックを行う。期末レポートは、manaba folioもしくはメールを通じてフィードバックを行う。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>講義時に授業資料を配布する。また、参考文献・資料は授業内で適宜紹介する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>質問は授業開始前もしくは授業後に受け付ける。集中講義期間外は、メールで対応する。</p>
<p>連絡先</p> <p>メールアドレス：ytakano@asu.aasa.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業開始前に、授業に関するアンケート調査を実施する。 ・文献講読や発表資料の作成など、授業外で行う作業がある。

健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）		【単位数】	2単位
授業コード	M5650	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	多田 志麻子		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	臨床心理学 健康心理学		
本授業の概要			
心の健康教育に関する理論と実践を学ぶ。 心の健康の保持増進や病気の予防に関する理論を理解したうえで、グループワークや研究論文の実践事例の発表・討論を取り入れ、心の健康の予防、維持増進の心理支援のための実践方法を修得する。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	心の健康教育に関する理論を説明できる。		
2	心の健康教育に関する実践方法を支援に活用できる。		
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業での発表・討論への参加（40%）,		1/2
2	レポート課題（60%）		1/2
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目	実務あり		
実務経験の授業への活用方法			
担当者自身が臨床心理士・公認心理師として教育相談で実践した心理臨床経験を心の健康に関する理論や技法に活用する			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回：心の健康教育とは			
事前学修	心の健康教育について関連書籍を読み、疑問点をまとめておくこと		2 時間
事後学修	心の健康教育について学習内容を振り返ってまとめておくこと 心の健康教育について関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと		2 時間
第 2 回：予防、健康行動の維持増進のための心理学的理論			
事前学修	予防、健康行動の維持増進のための心理学的理論について関連書籍を読み、疑問点をまとめておくこと		2 時間
事後学修	予防、健康行動の維持増進のための心理学的理論について学習内容を振り返ってまとめておくこと 予防、健康行動の維持増進のための心理学的理論について関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと		2 時間
第 3 回：セルフケアのための自己理解			
事前学修	セルフケアのための自己理解について関連書籍を読み、自己理解のための実践方法をまとめておくこと		2 時間
事後学修	セルフケアのための自己理解について学習内容や実践方法を振り返ってまとめておくこと セルフケアのための自己理解について関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと		2 時間
第 4 回：健康とパーソナリティ			
事前学修	健康とパーソナリティについて関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと		2 時間
事後学修	健康とパーソナリティについて学習内容を振り返ってまとめておくこと 健康とパーソナリティについて関連書籍や論文を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと		2 時間
第 5 回：健康とストレス			
事前学修	健康とストレスについて関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと		2 時間
事後学修	健康とストレスについて学習内容やストレス対処法を振り返ってまとめておくこと 健康とストレスについて関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと		2 時間

第 6 回：健康と生活習慣		
事前学修	健康と生活習慣について関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2 時間
事後学修	健康と生活習慣について学習内容を振り返ってまとめておくこと 健康と生活習慣について関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと	2 時間
第 7 回：児童期・青年期（学校）の心の健康教育		
事前学修	児童期・青年期（学校）の心の健康教育について関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2 時間
事後学修	児童期・青年期（学校）の心の健康教育について学習内容を振り返ってまとめておくこと 児童期・青年期（学校）の心の健康教育について関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと	2 時間
第 8 回：成人期（職場）の心の健康教育		
事前学修	成人期（職場）の心の健康教育について関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2 時間
事後学修	成人期（職場）の心の健康教育について学習内容を振り返ってまとめておくこと 成人期（職場）の心の健康教育について関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと	2 時間
第 9 回：老年期の心の健康教育		
事前学修	老年期の心の健康教育について関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2 時間
事後学修	老年期の心の健康教育について学習内容を振り返ってまとめておくこと 老年期の心の健康教育について関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと	2 時間
第 10 回：災害と心の健康教育		
事前学修	災害と心の健康教育について関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2 時間
事後学修	災害と心の健康教育について学習内容を振り返ってまとめておくこと 災害と心の健康教育について関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと	2 時間
第 11 回：ストレスマネジメント		
事前学修	ストレスマネジメントについて関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2 時間
事後学修	ストレスマネジメントについて学習内容や実践方法を振り返ってまとめておくこと ストレスマネジメントについて関連書籍を読み直して、理解が深まった部分や疑問点をまとめておくこと	2 時間
第 12 回：認知行動療法		
事前学修	認知行動療法について関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2 時間
事後学修	認知行動療法について学習内容や実践方法を振り返ってまとめておくこと 認知行動療法について関連書籍を読み直して、理解が深まった部分や疑問点をまとめておくこと	2 時間
第 13 回：アサーショントレーニング		
事前学修	アサーショントレーニングについて関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2 時間
事後学修	アサーショントレーニングについて学習内容や実践方法を振り返ってまとめておくこと アサーショントレーニングについて関連書籍を読み直して、理解が深まった部分や疑問点をまとめておくこと	2 時間
第 14 回：アンガーマネジメント		
事前学修	アンガーマネジメントについて関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと	2 時間
事後学修	アンガーマネジメントについて学習内容や実践方法を振り返ってまとめておくこと アンガーマネジメントについて関連書籍を読み直して、理解が深まった部分や疑問点をまとめておくこと	2 時間
第 15 回：今後の課題・まとめ レポート提出		
事前学修	各発達段階の特徴に応じた健康に関する課題について関連書籍や論文を読み、まとめておくこと 各発達段階の特徴に応じた健康に関する課題に有効と思える予防の方法や実践的な心の健康教育あるいは対策等についてレポートにまとめておくこと	2 時間
事後学修	心の健康の予防、維持増進の心理支援のための実践方法について理解が深まった部分をまとめておくこと	2 時間

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
参考文献：竹中晃二編 健康心理学 北大路書房 宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫編 健康・医療心理学 医師薬出版 適宜資料を配付する。
オフィスアワー 質問は授業終了後またはメールで受け付ける。
連絡先 s9031@m.ndsu.ac.jp
留意事項